12154

7
333.9
SE

ドミニカ共和国
協力隊要請背景調査報告書

平成１１年８月
（１９９９年）

JICA LIBRARY
1208296 [2]

国際協力事業団

青年海外協力隊事務局

青
J R

目次

1　要請背景調査団の派遣

1－1　調査目的　・・・1
1－2　調査の背景・経緯　・・・1
1－3　調査団構成　・・・2
1－4　調査日程　・・・2
1－5　調査団行程(詳細)　・・・3
1－6　主要面談者　・・・5
1－7　隊員配置図　・・・7

2　調査結果　団長総括　・・・9

3　隊員活動進捗状況及び配属先・関係機関との協議結果

3－1　教育・文化分野
3－1－1　CONANI（国立児童相談所）　・・・・・・・・・・・・13
3－1－2　サレシアノ工業専門学校　・・・・・・・・・・・・・15
3－1－3　ビジャタピア 07-07 地域教育事務所　・・・・・・・・16
3－1－4　サルセド開発事務所　・・・・・・・・・・・・・・・18
3－1－5　ﾙｲｽ・ﾅﾎﾟﾚｵﾝ・ﾇﾆｪｽ・ﾓﾘｰﾅ 教員養成学校　・・・・・・・19
3－1－6　教育文化省第 5-6 地域事務所　・・・・・・・・・・・20

3－2　JICA プロジェクト方式技術協力との連携
3－2－1　ヤマサ　シエラ・プリエタ展示農場　・・・・・・・・・22

3－3　ハイティ国境沿いの隊員派遣予定もしくは派遣中配属先
3－3－1　サン・イグナシオ・デ・ロジョラ農業学校　・・・・・24
3－3－2　ロマ・デ・カブレラ畜産協会　・・・・・・・・・25
3－3－3　森林総局サバナ・クララ開発計画　・・・・・・・・・26

1208296 [2]

３－３－４　水利庁バラオナ地方灌漑事務所　・・・・・・・・・・・・２７
ﾗｺﾞ・ｴﾝﾘｷｰｼﾞｮ地方灌漑事務所　・・・・・・・・・・・・２７

３－４　大使館・隊員受入窓口機関表敬
３－４－１　在ドミニカ共和国日本国大使館　・・・・・・・・・・・・２９
３－４－２　大統領府技術庁　・・・・・・・・・・・・３０

３－５　その他主な調査事項

３－５－１　ﾗ・ﾛﾏｰﾅ東部福祉慈善団体「子供の家」「職業訓練校」・・３１
３－５－２　サン・ホセ・デ・オコア養護学校　・・・・・・・・・・３６
３－５－３　エルマンダ（ロス・コロッソス村）　・・・・・・・・・・３７
３－５－４　厚生省ヴァルヴェルデ県事務所　・・・・・・・・・・３８
３－５－５　緊急時の連絡体制　・・・・・・・・・・４０
３－５－６　米国平和部隊（APC）関連情報　・・・・・・・・・・４１

別添：写真

1　要請背景調査団の派遣

1―1　調査目的

ドミニカ共和国派遣隊員の職種は実に様々で、教育・文化、農業、保健医療分野と広範囲に渡って隊員が派遣されている。今調査団派遣では、上記重点分野の内、主に教育・文化分野、３分の１以上の隊員が派遣されている NGO 団体、JICA プロ技協と連携して活動を行っている村落開発普及員隊員の活動現場視察、配属先の隊員活動に対する意見聴取を実施し、今後の隊員派遣の方向性を探る。また、隊員配属省庁と隊員の活動現場である地方支部・支所のつながりが薄く、現場の声が中央省庁へ反映されることが殆どない行政の実態が報告されていることから、配属省庁の隊員活動に対する理解度を把握する。併せて、今後隊員派遣の可能性があるが、調査が必要と思われる要請・地域についても現場を視察、事務所と協議する。本調査団派遣によって、隊員派遣方針に関する事務所・事務局の共通認識を構築し、今後の派遣計画見直しに反映させる。

1―2　調査の背景・経緯

同国の協力隊受入窓口 ONAPLAN（大統領府技術庁企画局）は、慢性的な人材不足・時間的制約を抱えている。協力隊活動への理解度を高めるべく、以前プログラムオフィサー派遣時に、ONAPLAN の配属先評価、事務所との情報交換会議、要請開拓セミナーの実施につき議論されたが、現在の進捗状況を把握し、配属省庁・事務所との連携体制の在り方を検討する必要がある。また、政府機関の機能低下・予算不足等の問題により、従来から NGO 団体への派遣・連携を積極的に実施しており、現在３６名派遣中１６名の隊員が NGO 配属である。団体によっては政治色の強い所や基本方針の不明確な所も稀に見られるため、十分に精査した上で、要請を受理する必要がある。

他の途上国同様、同国でも首都と地方の発展格差が激しく、隊員派遣ニーズは地方でより大きいと判断される。事務所としても地方展開を促進しており、現在も３６名中２３名は地方隊員である。地方展開検討にあたり、事務所では村落開発普及員、植林等森林保全分野、青少年活動・幼稚園教諭等教育・文化

分野の派遣を検討しており、とりわけ、ヤマサ地区に派遣中の２名の村落開発普及員（女性）の活動は、JICA プロ技協「山間傾斜地開発計画」への協力のみならず、家庭菜園の普及や女性中心の村落開発の取組み等「小規模農家の生活水準の向上」に積極的に関わっており、今後の隊員派遣計画作成上、参考になる点が多いと思われる。また、１１／２森林経営隊員を皮切りに、貧困度の高いハイティ国境沿い地域に隊員が派遣されるが、今後教育・保健分野での同地域からの要請提出の可能性もあるため、併せて調査・検討する必要がある。なお、首都・地方とも昨年９月ハリケーン「ジョージ」の被害が、現在の隊員の活動状況にどのような影響を与えているかについても調査し、結果によっては派遣計画見直しも検討する。

１―３　調査団構成

団長／総括	大畑　英雄　協力隊技術顧問 教育・文化分野（主に協力手法）担当
団員／協力企画	鈴木　幸枝　派遣第２課職員

１―４　調査日程

平成１１年３月２２日～平成１１年４月３日

1-5 調査団行程（詳細）

1/2

要請背景調査団　　日程

派遣第二課国担当　鈴木幸枝
教育分野技術顧問　大畑英雄

ドミニカ共和国事務所1999年３月17日

月／日	曜日	時間	日程【移動】	連絡先	備考
3／22	月	16:15 17:24 19:00	ＪＩＣＡ事務所　発 Las Americas空港到着 (AA 635/17:24着) ホテル　イスパニオラ	☎ 221－7111	出迎：椿原調整員／アリスティー フェルナンデス ＊航空券預かり（リコンファーム）
3／23	火	09:00 09:15 10:30 13:30	ホテル発 ＪＩＣＡ事務所訪問（打合せ） 日本大使館表敬訪問 国立児童相談所（ビジャス・アグリコラ） (ラ・フェ)	☎ 682-4703 ☎ 566-8023 ☎ 565-1166	担当者：金村調整員 面談者：青山豪所長 面談者：赤澤正人特命全権大使 面談者：所長　ディグニア・デ・ラ・クルス 対象隊員：岡本成美 8/3　家政
3／24	水	08:30 10:30	ホテル発 ヤマサ(シエラ・プリエタ)展示農場視察		担当者：椿原調整員／アリスティー フェルナンデス 面談者：展示農場長 アントニオ ボランコ 対象隊員：池本利恵 10/1 村落開発 正木庸子 10/1 村落開発
3／25	木	08:30 09:00 11:30 15:00	ホテル発 サレシアノ工業高校 大統領府技術庁 ビジャクビア07-07地域教育事務所 サルセド近郊（泊）	☎ 536-9191 ☎ 577-3647	担当者：椿原調整員／アリスティー フェルナンデス 面談者：学校長 ネストル パリス 渋谷剛 10/1 オプセット 面談者：技術庁次官：ロサ・ＮＧ 担当者：金村調整員／アリスティー フェルナンデス 面談者：所長 エレナ ゴンザレス 対象隊員：村上亜希 10/2 青少年活動
3／26	金	08:00 08:30 11:00 14:00 	ホテル発 サルセド開発事務所 教員養成学校訪問(リセイ) （新隊員配属予定） 厚生省マオ県地域事務所 ダハボン（泊）	☎ 574-3379 ☎ 562-8224 ☎ 572-3191	担当者：金村調整員 面談者：所長 ハコボ ウタテ 面談者：学校長 ミグル アンヘル カスティージョ 平成１１年度春募集にて要請 面談者：各診療所視察 対象隊員：矢田涼子　9/1 保健婦 ホテルファンカルボ
3／27	土	08:30 10:30 13:00	サン・イグナシオ・デ・ロジョラ 農業学校 （配属先調査予定） ローマ・デ・カブレラ畜産協会 （新隊員配属予定＊） レスタウラシオン(サバナ・クララ) サント ドミンゴへ移動	☎ 579-8229 ☎ 579-4216 ☎ 532-4128	面談者：学校長：ホセ ルイス メサ （配属先調査） 面談者：協会代表　ビエンベニード エステベス ＊獣医師　11/1　清水(m) 面談者：森林総局(サバナ・クララープロジェ 担当) ＊森林経営　11/2　永野(m)
3／28	日		資料整理		
3／29	月	08:30 10:00 12:30 15:00	ホテル発 サンホセ・デ・オコア養護学校 （新隊員配属予定＊） ロス・コロノス 村 バラオナ移動 バラオナ　（泊）	☎ 558-3030 ☎ 524-5111	担当者：椿原調整員／アリスティー フェルナンデス ＊山縣守代 10/3 養護 面談者：エルマンダ 支部長 エリック ザルキン 対象隊員：河野将史 8/3　果樹 ホテルリヴィエラ

3／30	火	08:30 11:30 15:00	ホテル発 水利庁パラオナ支局 水利庁ネイバ支局 サン・ペドロ・デ・マコリスへ移動(泊)	☎ 574-2121 529-2100	担当者：椿原調整員／アリスティー フェルナンデス 面談者：グアリオネクス　レガル氏 対象隊員：品川具博 10/2 農業土木 Hotel　Haward Johnson
3／31	水	08:30 09:00 11:00 19:00	ホテル発 サンペドロ・デ・マコリス 教育文化省5-6 地域事務所訪問 （新隊員配属予定＊） ラ・ロマーナ 東部福祉総合団体 「子供の家」「職業訓練校」 懇親会	☎ 553-7287 対象隊員 中島 里花 9/1 幼稚園 益子原 恵美 10/1 栄養士 三國 厚子 10/2 保母 藤原 千幸 9/3 安知工 長谷部 宇 10/2 配管	担当者：椿原調整員 面談者：ソル レオノル 対象隊員：松下高士　10/1　音楽 ＊高橋亜紀　11/1　体育 担当者：椿原調整員 面談者：会長 シオマラ メネンデス氏 秘書オンディーナ・デ・モリーナ氏 出席者：所長・高橋職員・調整員 各隊員（10/2が主，隊員計10名）
4／1	木	08:45 09:00 11:00	ホテル発 事務所へ最終報告 移動：Las Americas空港 AA588 (13:10発) 便にてニューヨークへ		担当者：金村調整員／アリスティー フェルナンデス

(電話連絡先、住所)

ＪＩＣＡ事務所：６８２－４７０３ (Av.Bolivar 818)

日本大使館：５６６－８０２３ (Torre BHD 8 piso)

青山所長：５６７－３１９３

椿原調整員：６８２－０５１８

金村調整員：６８８－４１００

隊員連絡所：５６２－６６０７ (Av.Enriquillo No.54)

ホテル メリアサントドミンゴ：２２１－６６６６ (Av.George Washington 218)

1-6 主要面談者

1/2

ドミニカ共和国協力隊要請背景調査団
主要面談者氏名

3/23

1 在ドミニカ共和国日本大使館
特命全権大使　赤沢　正人
二等書記官　田中　忠重

2 国立児童相談所（計５名）
所長：Deidamia de La Cruz

Coordinadora：
Villas Agrícola地域担当者：Martín Moya
La Fé 地域担当者：Marino Jimenez
その他の地域担当者：

3/24

1 YAMASA
展示農場長：Antonio Polanco Rodriguez

3/25

1 サレシアノ工業高校
学校長：（Padre） Néstor Luis Pazos
主任：Carlos Silva

2 大統領府技術庁　Secretariado Técnico de la Presidencia
技術庁次官：Rosa Ng.de Egerle

3 ビジャタピア07-07地域教育事務所
事務所長：Elena Altagracia Gonzalez

3/26

1 サルセド開発事務所
事務所長：Jacobo Utate

2 ルイス・ナポレオン・ヌニェス・モリーナ教員養成学校
隊員のカウンターパート　2名（理科教師）
Antonio Manuel Cruz
Hunberto Frómeta

3 厚生省マオ県地域事務所
事務所長：José Luis Peralta

3/27

1　サン・イグナシオ・デ・ロジョラ農業学校
学校長：José Luis Mesa

2　ローマ・デ・カブレラ畜産協会
副協会長：Bienvenido Estevez

3　大統領府　森林総局　サバナ・クララ開発計画（レスタウラシオン）
レスタウラシオン営林支所職員：José Ramon
サバナ・クララ開発計画担当職員：Teólida Contreras
（レスタウラシオンまで同行してくれた日系一世の方　矢野久子さん）

3/29

1　サンホセ・デ・オコア養護学校
学校長：Daniel de Los Santos
教員（カウンターパート）：Alejandro Arias

2　エルマンダ
支部長：Eric Zalkin

3/30

1　水利庁バラオナ地方灌漑事務所
事務所長：Guarionex Leger
職員（カウンターパート）：Rafael Antonio

2　水利庁　ラゴ・エンリキージョ地方灌漑事務所
事務所長：Nelson Casimiro Oller
その他職員：Domingo de La Rosa
Ramon Antonio Montilla
Miguel Perez Moquete

3/31

1　サンペドロ・デ・マコリス
教育文化省5-6地域事務所
配属先所長不在

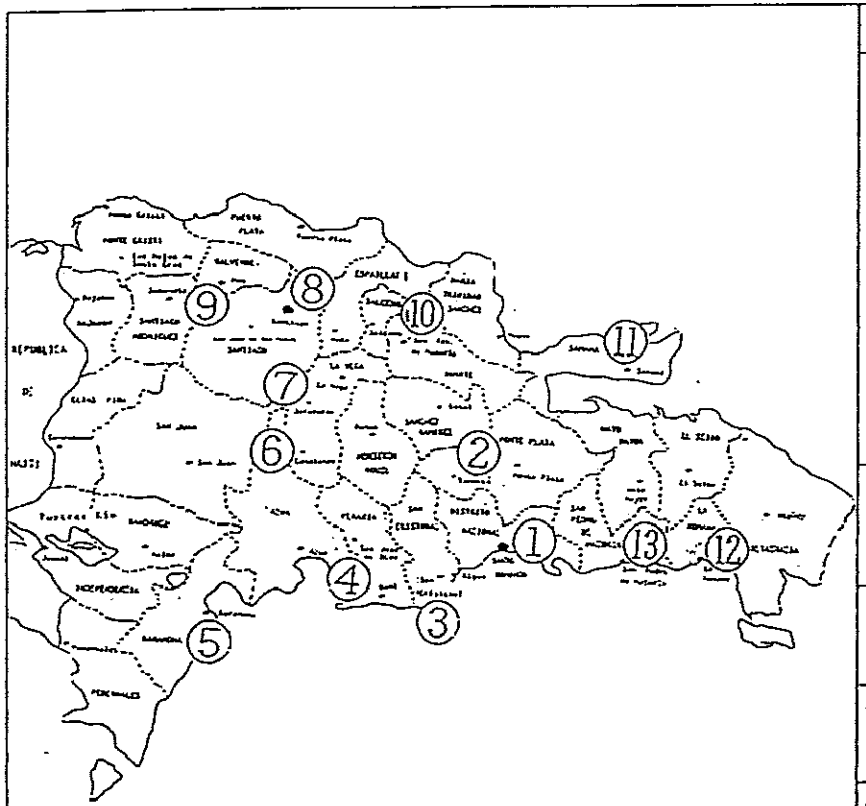
2　ラ・ロマーナ
東部福祉慈善団体

理事長：Xiomara de Menendez
所長　：Ondina de Molina

以上

ドミニカ共和国隊員配置図

1999年3月1日現在
派遣中隊員　３６名
ドミニカ共和国事務所
（男子１５・女子２１）



地名番号は「専門家等地図」と異なる

隊次	隊員氏名	職種	～ 任期
① SANTO DOMINGO (ｻﾝﾄ･ﾄﾞﾐﾝｺﾞ)： １３名			
8/1	中澤　亨	婦人子供服	99/03/08
8/1	三浦　慶子	音楽	99/07/08
8/3	梅田　三保子	日本語教師	99/07/06
8/3	岡本　成美	家政	99/04/06
8/3	渡辺　多恩	ｼｽﾃﾑ･ｴﾝｼﾞﾆｱ	99/04/06
9/3	有島　正美	ｼｽﾃﾑ･ｴﾝｼﾞﾆｱ	00/04/06
10/1	澤田　憲孝	剣道	00/07/13
10/1	渋谷　剛	オフセット	00/07/13
10/1	角田　健太郎	商品器	00/07/13
10/2	菊田　明夫	ｼｽﾃﾑ･ｴﾝｼﾞﾆｱ	00/12/07
10/2	長谷川　純	ｼｽﾃﾑ･ｴﾝｼﾞﾆｱ	00/12/07
10/2	三浦　功也	養護	00/12/07
10/2	埜口　香代子	手工芸	00/12/07
② YAMASA (ﾔﾏｻ)：		２名	
10/1	池本　利恵	村落開発普及員	00/07/13
10/1	正木　薫子	村落開発普及員	00/07/13
③ SAN CRISTOBAL (ｻﾝ･ｸﾘｽﾄﾊﾞﾙ)： １名			
9/3	渡辺　孝	自動車整備	00/04/06
④ SAN JOSE DE OCOA (ｻﾝ･ﾎｾ･ﾃﾞ･ｵｺｱ)： １名			
8/3	河野　将史	果樹	99/10/06
⑤ BARAHONA (ﾊﾞﾗｵﾅ)： １名			
10/2	品川　具博	農業土木	00/12/07
⑥ CONSTANZA (ｺﾝｽﾀﾝｻ)： １名			
10/1	武井　博美	幼稚園教諭	00/07/13

隊次	隊員氏名	職種	～ 任期
⑦ JARABACOA (ﾊﾗﾊﾞｺｱ)： ３名			
10/2	阿児　雅之	植林	00/12/07
10/2	鈴木　久子	獣医師	00/12/07
10/2	中嶋　恵	植林	00/12/07
⑧ SANTIAGO (ｻﾝﾃｨｱｺﾞ)： ３名			
9/2	藤田　修	電子機器	99/12/07
9/3	渡辺　薫	婦人子供服	00/04/06
10/1	実盛　寿美	理学療法士	00/07/13
⑨ MAO (ﾏｵ)： １名			
9/1	矢田　涼子	保健婦	99/07/13
⑩ SALCEDO (ｻﾙｾﾄﾞ)： １名			
10/2	村上　亜希	青少年活動	00/12/07
⑪ SAMANA (ｻﾏﾅ)： ２名			
10/2	大橋　美和子	栄養士	00/12/07
10/2	仲野　由美	看護婦	00/12/07
⑫ LA ROMANA (ﾗ･ﾛﾏﾅ)： ６名			
9/1	中島　里花	幼稚園教諭	99/07/13
9/3	藤原　千華	電気工事	00/04/06
10/1	盆子原恵美	栄養士	00/07/13
10/1	山上　恵子	小学校教諭	00/07/13
10/2	長谷部　守	配管	00/12/07
10/2	三國　厚子	保母	00/12/07
⑬ SAN PEDRO DE MACORIS (ｻﾝ･ﾍﾟﾄﾛ･ﾃﾞ･ﾏｺﾘｽ)： １名			
10/1	松下　高士	音楽	00/07/13

ドミニカ共和国配属先別派遣状況表

1999年3月1日現在

配属省庁（機関）			職種	人数	備考
大統領府 4名	1	国立児童相談所 計 1名 CONSEJO NACIONAL PARA NINEZ (CONANI)	家政	1	岡本 成美 (ｻﾝﾄ・ﾄﾞﾐﾝｺﾞ)
	2	国立工芸学校 計 1名 CENTRO NACIONAL DE ARTESANIA (CENADARTE)	陶磁器	1	角田 健太郎 (ｻﾝﾄ・ﾄﾞﾐﾝｺﾞ)
	3	ﾄﾞﾐﾆｶ投資調査基金 (FONDOPREI) 計 1名 FONDO DOMINICANO DE PREINVERSION	ｼｽﾃﾑ・ｴﾝｼﾞﾆｱ	1	長谷川 純 (ｻﾝﾄ・ﾄﾞﾐﾝｺﾞ)
	4	森林総局・国立森林学校 計 1名 DIRECCION GENERAL FORESTAL	森林	1	中嶋 恵 (ﾊﾗﾊﾞｺｱ)
厚生社会福祉省 3名	5	厚生社会福祉省・地域事務所 計 3名 OFICINA PROVINCIAL SESPAS	保健婦 栄養士 看護婦	1 1 1	矢田 涼子 (ﾏｵ) 大橋 美和子 (ｻﾏﾅ) 仲野 由美 (ﾗｽ・ﾃﾚﾅｽ)
教育文化省 6名	6	サンティアゴ工業専門学校 IPISA 計 1名 INST. POLITECNICO INDUSTRIAL DE SANTIAGO	電子機器	1	藤田 修 (ｻﾝﾃｨｱｺﾞ)
	7	エリラ・メナ音楽学校 計 1名 ESCUELA ELEMENTAL DE MUSICA ELILA MENA	音楽	1	三浦 巌子 (ｻﾝﾄ・ﾄﾞﾐﾝｺﾞ)
	8	サレシアノ工業専門学校 計 2名 INSTITUTO TECNICO SALESIANO (ITESA)	システム・エンジニア オフセット	1 1	有島 正美 (ｻﾝﾄ・ﾄﾞﾐﾝｺﾞ) 渋谷 剛 (ｻﾝﾄ・ﾄﾞﾐﾝｺﾞ)
	9	5－6地域事務所 計 1名 DISTRITO EDUCATIVO 05-06 SEEC	音楽	1	松下 高士 (ｻﾝ・ﾍﾟﾄﾛ・ﾃﾞ・ﾏｺﾘｽ)
	10	母なる谷学校 計 1名 COLEGIO NUESTRA SENORA DEL VALLE	幼稚園教諭	1	武井 博美 (ｺﾝｽﾀﾝｻ)
ｽﾎﾟｰﾂ・体育・ﾘｸﾘｴｰｼｮﾝ省 1名	11	ドミニカ剣道協会 計 1名 ASOCIACION DOMINICANA DE KENDO	剣道	1	澤田 憲孝 (ｻﾝﾄ・ﾄﾞﾐﾝｺﾞ)
その他の官公庁関係 3名	12	農地庁・ﾔﾏｻ 市ｼｴﾗﾌﾟﾘｴﾀ 展示農場 計 2名 IAD FINCA MODELO DE SIERRA PRIETA, YAMASA	村落開発普及員	2	池本 利恵 (ﾔﾏｻ) 正木 麻子 (ﾔﾏｻ)
	13	水利庁 (INDRHI) 計 1名 INST. NACIONAL DE RECURSOS HIDRAULICOS	農業土木	1	品川 具博 (ﾊﾗｵﾅ)
大学 1名	14	アペック大学 計 1名 UNIVERSIDAD APEC (UNAPEC)	日本語教師	1	梅田 三保子 (ｻﾝﾄ・ﾄﾞﾐﾝｺﾞ)
その他の官公庁関係 1名	15	職業技術訓練庁 (INFOTEP) 計 1名 INST. FORMACION TECNICO PROFESIONAL	ｼｽﾃﾑ・ｴﾝｼﾞﾆｱ	1	菊田 明夫 (ｻﾝﾄ・ﾄﾞﾐﾝｺﾞ)
地方自治体 1名	16	サルセド開発事務所 計 1名 OFICINA TECNICA PROVINCIAL DE SALCEDO	青少年活動	1	村上 亜希 (ｻﾙｾﾄﾞ)
NGO 16名	17	東部福祉慈善団体 計 6名 子供の家・職業訓練所 PATRONATO BENEFICO ORIENTAL HOGAR DEL NINO / TALLER VOCACIONAL	幼稚園教諭 電気工事 栄養士 小学校教諭 配管 保母	1 1 1 1 1 1	中島 里花 (ﾗ・ﾛﾏﾅ) 廣原 千鶴 (ﾗ・ﾛﾏﾅ) 益子原恵美 (ﾗ・ﾛﾏﾅ) 山下 恵子 (ﾗ・ﾛﾏﾅ) 長谷部 守 (ﾗ・ﾛﾏﾅ) 三國 厚子 (ﾗ・ﾛﾏﾅ)
	18	ドミニカ・リハビリテーション協会 計2名 ASOC. DOMINICANA DE REHABILITACION	養護 手工芸	1 1	三浦 功也 (ｻﾝﾄ・ﾄﾞﾐﾝｺﾞ) 壁口 春代子 (ｻﾝﾄ・ﾄﾞﾐﾝｺﾞ)
	19	アペック婦人支援協会 計 1名 PROMOCION APEC DE LA MUJER (PROMAPEC)	婦人子供服	1	中澤 亨 (ｻﾝﾄ・ﾄﾞﾐﾝｺﾞ)
	20	エルマンダ 計 1名 HERMANDAD, INC.	果樹	1	河野 将史 (ｻﾝ・ﾎｾ・ﾃﾞ・ｵｺｱ)
	21	教育文化基金 (FUNDAPEC) 計 2名 FUNDACION APEC DE CREDITO EDUCATIVO	ｼｽﾃﾑ・ｴﾝｼﾞﾆｱ 自動車整備	1 1	渡辺 多恵 (ｻﾝﾄ・ﾄﾞﾐﾝｺﾞ) 渡辺 孝 (ｻﾝ・ｸﾘｽﾄﾊﾞﾙ)
	22	ジャケ技術専門学校 計 1名 ESCUELA YAQUE, INC.	婦人子供服	1	渡辺 薫 (ｻﾝﾃｨｱｺﾞ)
	23	シバオ・リハビリテーション協会 計 1名 PATRONATO CIBAO DE REHABILITACION	理学療法士	1	実盛 寿美 (ｻﾝﾃｨｱｺﾞ)
	24	プラン・コルディジェラ 計 1名 PLAN CORDILLERA	植林	1	阿児 雅之 (ﾊﾗﾊﾞｺｱ)
	25	ハラバコア畜産協会 計 1名 ASOCIACION DE GANADEROS DE JARABACOA	獣医師	1	鈴木 久子 (ﾊﾗﾊﾞｺｱ)

○派遣中隊員：36 (21)
○派遣実績 ：266 (123)

2　調査結果　団長総括

（1）　隊員派遣計画について

平成11年3月1日現在の派遣中隊員と、平成11年で現在計画済の派遣展開は、以下のとおり要約できる。相手国の重要政策目的に沿った分野が主で、背景調査もそれなりに行われている。今後派遣展開の上で、考慮すべき点は、

ア　遠隔地へ隊員を配置する場合には、派遣地図を作成し、いざというときのために、お互いに連絡のとれる範囲（距離）内に他の隊員がいるように配置することを考えること。

イ　共通した分野、又は同分野の隊員による協力活動の「情報交換会・勉強会」の開催をJICA事務所が積極的に支援し、現地に即した活動を目指して各隊員の協力活動をより充実したものとすること。

ウ　NGO派遣は、NGOの資金基盤がしっかりしていることが大前提であるが、資金源が状況次第で途絶えてしまうことがありうる。そうなると即隊員活動に支障が生じることになるので、配属先の動向に注意をすることはもとより、隊員からも随時状況連絡を受け、早めに対応策がとれるようにする。

◎3月1日現在隊員数

首都13（内NGO4）　地方23（内NGO12）　合計36（内NGO16）

比率　0.36　0.64　（NGO比率0.44）

◎平成11年末の派遣数（計画済分）

首都14（内NGO3）　地方30（内NGO11）　合計44（内NGO14）

比率　0.32　0.68　（NGO比率0.32）

☆分野別派遣状況

分野	3月1日現在数	構成比	平成11年末	構成比	順位
農林水産	7	0.19	12	0.27	2
加工	2	0.06	2	0.05	
保守操作	3	0.08	4	0.09	

土木建築	1	0.03	2	0.05	
保健衛生	7	0.19	9	0.20	3
教育文化	15	0.42	13	0.30	1
スポーツ	1	0.03	2	0.05	
合計	36		44		

（2）ドミニカ共和国の協力隊窓口（大統領府企画局 ONAPLAN)について

平成９年一般短期派遣永野千春プログラムオフィサーの平成10年10月24日付報告書によると、「ドミニカ共和国における政府側の窓口は大統領府技術庁企画局 ONAPLAN である。本来ならばそこと連携を取り合って要請開拓や配属先評価を行わなければならないが、残念ながら現在の ONAPLAN の仕事は単に要請書を外務省に送るだけとなっている。・・・」

「・・・ JOCV の基本について確認した後、今後の要請開拓をどのように行っていくべきか話し合った。その話し合いの内容であるが、

1. ONAPLAN としては特に配属先評価（協力隊とどのような活動を行っているか）を行うべきだという気持があるようだが、人材不足、時間的問題から実際に実行するのは難しい。

2. 要請に関しては ONAPLAN の方にも問い合わせはくる。その場合自らの判断にて優良である場合のみ JICA 事務所に紹介している。→お互いの要請情報を共有するために、２～３ ヵ月に一度の割りで情報交換会議をもつ。

３． JOCV と ONAPLAN が連携をとって要請開拓のためのセミナーを行う。国内の NGO 及び公的機関の中から JOCV に興味をもっている人々を集め（ONAPLAN により選別してもらう）、JOCV についてその要請（申請）について説明・質問を行う。→当初 8 月中には実施したい考えであったが、ONAPLAN の内部事情で延期中。

4. ONAPLAN としても、もっと協力隊の活動や配属先の問題点を知りたい。スペイン語による報告書の提出を検討してはどうか。」

という記述がある。

この点を重視し、今回の出張で、その後どのような状況になっているか確認することを調査の一項目とした。

新隊員赴任時にその時期の帰国隊員とともに、ONAPLAN 表敬を行い同時に、広報活動を実施することが行事化した点は一歩前進である。

調査団ドミニカ共和国入り後、1月の大統領令にて、ONAPLAN の技術協力担当官ロサ女史が、技術庁次官に任命され、今後技術庁次官を技術協力の窓口とする旨の布告があった。有能な人物を抜擢したことで事態の改善と受け取りたいが、技術庁内に人事的確執もある模様で、ロサ次官は未だ直属の部下の配置を得ていない。次官として他国への業務出張も多く、常に多忙な様子である。一方、企画局の方でも今までどおり書類の受け取りを行うという動きもあった模様で、日本大使館、JICA 事務所でも、この件が落ち着くまでには暫く時間がかかるものと考えられている。当面大統領令がでている以上、ロサ次官を窓口として事務処理し、且つ企画局とも連絡を保つような配慮が必要であり、また JOCV 関係業務（要請・受入れ確認等）も、JICA 事務所として統一的な見解のもとに執行してゆく必要がある。（調査団帰国後、結局ロサ氏が全 JICA 事業の窓口を担当することで落ち着いた。）

3月25日に同次官を表敬訪問したときも、来訪客が多く、机上には書類が山積みされ、忙しそうで恐縮であったが、我々との面談は時間をとって対応してくれた。当方の質問に対して同次官は「JOCV 隊員の協力活動は評価している、JOCV 隊員にもっと活動していただきたい。」と言われ、派遣分野としては、特に地方の生活改善のため、国策に沿った教育、農業、保健を要望した。また、「NGO に関しては、立場上どれが良いか否かを表立っては言えないが、JOCV とは知己の間柄なので個人的な助言はする」と話してくれた。因に当国で活動する NGO はその数 500 にも及ぶ由。

ゆっくり話している状況ではなかったのと、事柄が現時点で微妙な問題なので、『窓口の件』は敢えて持ち出さなかった。

（3）今回の調査では、より多く地方隊員の現場を訪れ、実態調査すること、及び派遣が計画されている地域の状況や、配属予定先を訪れることとした。

（4）調整員活動について（感想）

今回の地方巡回については、椿原孝典調整員及び金村浩子調整員に多大なご協力をいただいた。隊員経験者と民間出身者の組み合わせであり女性隊員が多い（女性隊員比率 0.58）当国では、適切な配置であると思う。両調整員は、お互いに意思疎通を緊密にして隊員支援をしており、好ましいコンビネーションである。時には意見の衝突があってよい、その方がかえって状況分析を深める効果があり、職場環境を活性化し、より良いアイデアを生み出すよすがともなる。

以上

3　隊員活動進捗状況及び配属先・関係機関との協議結果

3－1　教育・文化分野

3－1－1　CONANI（国立児童相談所）

配属隊員名：岡本　成美（8／3・家政）
（同配属先から１１年度春募集で「保育士」（新規要請）の要請が提出されている。）

（1）隊員の活動状況

主に児童の母親対象に手芸を指導しており、自費で材料を用意する積極的な姿勢が見られる母親も中にはいる。現時点で作品販売までには至っていないが、手工芸品作成を通じて、母親の気持ちに自信が生まれるという効果が現れている。共に勤務するソーシャルワーカーも手芸を習っており、隊員に対し非常に協力的である。

その他に、配属先から、将来の現金収入の一端となるよう、児童（8～9歳の児童が多い。）に対しても手芸を教えてほしいとの強い希望があり、一部児童にも指導しているが、年少の子が多く、針を持たせること自体に隊員は疑問を感じているため、児童への指導は積極的には進めず、大人対象の指導により力を入れている。

（2）CONANI 本部での面談概要

ア　所長の岡本隊員の活動に対する見解

経済的な理由から手芸の材料を自費で用意できない母親や児童がいる中で、隊員が身近にある材料を使って母親や児童に手芸を指導していることに非常に好感を覚えている。(所長は、作品展示会で彼女の作品を見に来たこともあり、隊員の技術レベルの高さを評価している。)

材料不足の問題に関しては、現在そのために必要な予算措置が講じられるよう教育省に働きかけている所である。岡本隊員の活動により、母親の手芸に対する関心が高まっていることは非常に喜ばしく、今後他の分野でも、母親の関心を更に高められることが望ましい。

イ　協力隊派遣に期待したい職種

現在、１１年度春募集で「保育士」があがっている。

他に派遣希望が高かった職種は「ソーシャルワーカー」で、配属先からは強い要請提出の希望が告げられた。ほぼ全ての配属先管轄のセンター（ミニ小学校）に現在ソーシャルワーカーがおり、児童の親の相談に応じたり、家庭訪問を行ったりすることを主な業務としている。心理学医が常駐していないセンターでは、その面でのカウンセリングも求められる。CONANI 本部に常駐する、高等教育を受けたソーシャルワーカーは１人のみで、３３施設総てを彼女一人で巡回指導することは不可能である。よって、要請が提出された場合、隊員には主に現地ソーシャルワーカーの巡回指導をし、彼らの技術・指導レベルを高めることが期待されている。他に、「保健婦」も派遣を希望している旨発言があった。

（３）CONANI 管轄のセンター（ミニ小学校）概要

（Villas Agrícola,La Fé の２センター（岡本隊員活動現場）訪問）

Villas Agrícola,La Fé に関し、どちらとも約２００名以上の児童が通ってきている。全て無料のため、利用者が大変多く、現場からはやや混沌とした印象を受けた。基礎教育・栄養面・精神面に関する専門家を配置しており、人員配置の仕方は予想以上に進んでいる。La Fé の保健室にはイラン人のドクターが厚生省から派遣されており、カウンセリングルームではソーシャルワーカーが母親の家庭の相談に応じていた。教室では、音楽（歌）や簡単な算数の授業、外では体育の授業等が行われる。生徒の数が多いため、訪問時には同一教室内で、学力レベル別に３クラスに分かれて授業が行われていたが、あまり落ちついて学習ができる環境ではないように感じられた。教室の他に、遊具のある庭、調理室などもある。児童には、１日２食とおやつ（コンスターチとミルクを混ぜたもののみではあるが。）が配給される。問題点として、La Fé のイラン人ドクターは、例えば保健衛生に関する指導を児童に行っても、引き続きそれを指導する環境が家庭に整えられていないため、結局は実践に生かされない苦労を挙げていた。

（４）大畑顧問コメント（１１年度春募集「保育士」要請の取り組みについて）

ア　まず現在派遣中の幼稚園教諭隊員に現場を見てもらい、直接現場に隊員を派遣することの是非についてコメントを得ること。今回現場を見た限りでは、対象児童が不特定多数、児童の出入りも頻繁で、来るものは拒まずの状態のため、人数が増加し続け、現場の実状は３食を与えて健康状態をチェックするのが精一杯のように見受けられる。内部は雑然としたイメージを拭えなく、クラス分けして読み書きや数も教えてはいるが、同じ教室でクラス毎に仕切がないところもあり、児童に落ち着きが見られない。

イ　保育士を派遣する場合には、CONANI 本部配属とし、Coordinadora（CONANI 本部と各センターの調整・渉外担当）をカウンターパートとし、隊員は当初実状調査を徹底し、カウンターパートと密に協議しながら、モデル地区の選定はもとより、現在保母として働いている者の中から今後の活躍が期待される者を選抜して、２ヶ月程度本部にてセミナーを実施する。その後このセミナー修了者の現場を巡回、実地指導するというような活動が考えられる。

３－１－２　サレシアノ工業専門学校
配属隊員名：渋谷　剛（１０／１・オフセット）

＊学校長等関係者と面談を行い、校長の案内で校内を視察した後に、隊員から活動状況を聴取した。

（１）渋谷隊員は十分な技術力・経験（印刷会社で８年勤務。）を持ち人柄も温厚で、同校の幹部層も含め現場のスタッフからも信頼を受けている様子が伺えた。最近 Supervisor（現場管理責任者）として、資材管理を含めた現場主任を任されることになった。

（２）学校の中に大きな印刷工場があり、主にアメリカ及びスペインから各種印刷機械が導入されている。工場の真ん中あたりにスタッフルームがあり、そこに机を置いている。学校の教科書印刷も受注するが、現在は来年５月の大統領選挙に備えたカラーの選挙ポスター・パンフレット・小冊子等に多量の受注があり、多忙の様子であった。自信を持って業務に取り組む様子が伺えた。

（3）隊員の話によると、生徒の家庭はどちらかというと貧困層が多いとのことである。隊員に対する対応は非常に良く、共に遊びに行ったりと仲も良好の模様。

（4）今後、作業効率・技術面でのより一層の向上のために4色機の導入を校長・隊員とも希望しているが、高額で数千万以上するとのことである。校長は日本の援助で購入できないかと隊員に持ちかけたようだが、仮にできるとしてもJICAと配属先で折半する必要があると説明したとのことである。

（5）問題としては、不足した資材をリストアップして、定期的に配属先に購入依頼を行っているが、配属先の判断で全てを購入してもらえない場合や発注先がすぐに届けてくれないことがある点、また、自分が品質の面で問題があると思っても、上司の判断でそのまま作業が進められることがあり、皆あまり品質にこだわっていない点があげられた。

（6）同校の情報処理課に配属となっていた9／3SE 隊員が3月に任期短縮したことに関しては、校長から残念だったとの言葉があった。昨年同課には草の根無償で46台のコンピューターが供与された。工作機械学科も視察したが、コンピューター制御の工作機械を導入予定であり、右分野で隊員を要請したい旨校長から打診があった。

（7）同校の概況を校長から伺った。現在560名が在籍しているが、入学応募者は定員の3倍を超え、筆記・面接の試験を行う。4年生、奨学金制度があること、落第制度がなく課程を修了できず進級できない生徒は退校となることが同校の特徴。来年からは女生徒も受け入れる予定。専門学校が近辺では同校のみであることから、工場からの求人が多く、就職率は約92％と非常に高い。卒業式には政府関係者も出席して大々的にセレモニーが催されるとのことであり、同校の社会的評価も高いことが伺える。

3－1－3　ビジャタピア07-07地域教育事務所
配属隊員名：村上　亜希（10／2・青少年活動）

＊教育事務所長及び村上隊員と面談し、活動現場のひとつである同事務所の隣の学校を視察した。

（１）近い内に小・中学校低学年の英語の授業を受け持つ予定である。村上隊員が英語科卒業、英語の塾講師の経験がある略歴から、配属先から隊員に要望したものである。村上隊員は同教育事務所管轄の学校を巡回し、主に学校の授業の様子を視察している。日本人が珍しいのか、調査団が教育事務所隣の小学校を見学した際には、周りに児童が大勢集まってしまった。同事務所が管轄している学校の特徴として、生徒は一般家庭（中流クラス）の児童が大半であること、また、生徒の数に比して教員数が少ないことがあげられる。村上隊員は、学校視察以外の空きの時間は教育事務所に詰め、２人の秘書と一緒に電話の応対をしたり、地域の子供達や母親を対象としたコミュニティー活動の支援を行ったりしている。仕事を手伝いながら、秘書達の話を聞くことができ、現在どんなイベントや試みが教育事務所を中心に実施されているのかが分かるとのことであった。

（２）使用されている英語のテキスト（全て会話形式）を見せてもらった。レベル的には低いが、テキストは子供が飽きないように会話内容や挿し絵に工夫がなされているようであった。テキスト自体は悪くないのだが、週１回のみの授業、英語を指導できる教員が非常に少ないこと、小学校５学年（１０歳）から習い始めてずっと中学を卒業するまで右テキスト１冊しかないこと、勉強しても卒業後英語を使える環境が殆どなく動機付けが上手くなされていないこと等の問題があり、結果として非常にレベルの低い授業展開となっている模様。

（３）教育事務所は、ビジャタピア内の３４の公立小・中学校を管轄し、右業務の活動拠点となっている。地域活性化のために、地域で現在問題になっている事柄や青少年の中絶、教育の在り方などに関連した事柄を話し合うための父兄会の開催や識字教育、現在の教育を改善するための研究授業・会議などを頻繁に開催している。また、他地域の教育事務所との交流も活発である。教育事務所自体は、組織だっていてやる気も十分にあるが、教員・職員の不足という問題もあり、実際の学校や現場にはまだ教育事務所の方針が行き渡っておらず、十分に活動が行われていない状態である。このような状況から隊員に期待する

ところは大きく、また隊員としても自分の活動の切り口を広く探せる配属先であると思料する。

（４）教育事務所には、EU と中南米諸国との間で結ばれている＊ロメ協定に基づき、パソコンなどの教育用備品が導入されている。
（＊ロメ協定に基づき、同国ではサルセド県を含む３県で " Programa Integrado de Desarrollo a la Educación Primaria（初等教育支援のための統合プログラム）" が１９９４年３月から開始され、１９９８年に終了した。これにより、"Fondo Europeo de Desarrollo（ヨーロッパ社会開発基金）"から EU が７００万ユーロを拠出、ドミニカ共和国政府が１００万ユーロを拠出し、教育事務所や学校に対して、ア　教材（教科書等）の提供　イ　教師向けの研修　ウ　遠隔地に住む教師達に、通勤するためのバイク購入資金等の融資　エ　校舎・教室用備品の供給やメンテナンス用基金の設立　が実施された。）

（５）生活面に関し、村上隊員は同事務所隣の学校の正面に住んでいるが、家主さんは同学校の女性教諭であり、米国滞在中の、隊員と同年齢ぐらいの娘さんがいる。隊員が時折過保護と思えるほどに、娘同様に可愛がられている。下宿先には、特に問題はない。

３－１－４　サルセド開発事務所

配属隊員名：(村上　亜希（１０／２・青少年活動))
配属予定　：１１／２・植林　１１／３・土木施工

＊同事務所長と面談し、村上隊員の現在の活動状況の報告と今後派遣予定の２名の隊員に対する期待を伺った。また、１１／２植林合格者の前任が活動していた現場を視察した。

（１）村上隊員がビジャタピアで当面活動することになった理由は、隊員の活動拠点となっているビジャタピアの事務所に、サルセド事務所からの出向者がおり関係が深いこと、また、地域が平野部にあり（サルセド事務所はやや山間部近くにある。）住む上でも暮らしやすいのでは、との配慮があった由である。

村上隊員の前任は体育隊員で、バスケットボールを中心にスポーツ普及を図っていたが、後任にはスポーツのみならずもっと広い分野で地域活性化につなげてほしいとの意向から、青少年活動が要請された経緯がある。

（２）同地域は副大統領の出身地でもあり、１１／２植林合格者の前任隊員が個人的に副大統領と親睦を深めていたことから、同地への植林隊員の派遣には強い希望を持っていたようである。1997 年から当国政府が推進する"Quisqueya Verde（キスケージャ・ヴェルデ：NGO との積極的な連携や住民の生活向上と植林の組み合わせという概念を取り入れた緑化政策)" がサルセド地域でも実施されており、１１／２植林合格者の前任隊員は、開発事務所が管轄している小規模苗畑 Los Guayuyos と、NGO のサルセド・エコロジー団体 SOESA が所有している苗畑 Ojo de Agua を主な活動拠点としており、配属先・現地スタッフからは非常に高い評価を得ていた。後任にもまずは両地域での活動が期待されている。

調査団は後者の苗畑 Ojo de Agua を視察した。同地は前任隊員が支援経費を導入して完成させたようなものだが、隊員帰国後、同 NGO に予算がなく人員配置もままならず、１～２人しか管理する人がいないため、苗床の維持管理はあまり良くなされていない状態であった。支援経費支出の可否を判断する時点で、規模やその後の運営・維持管理というメンテナンスの問題をもう一歩踏み込んで検討すべきであったものと思料される。

３－１－５　ﾙｲｽ・ﾅﾎﾟﾚｵﾝ・ﾇﾆｪｽ・ﾓﾘｰﾅ教員養成学校
（１１年度春募集で「理科教師」（新規要請）が提出されているが、公式化の見通しは不明。）

＊訪問時学校長は不在で、隊員のカウンターパート（理科教師）２名と面談し、講義室・実験室を見学した。

（１）小学校教員を養成しており、隊員には生物・化学・物理と理科全般に亘った基礎的事項の指導が求められることになる。平日は教員志望者２１７名、土曜の午前中は現職教員５５０名が学んでおり、面談した両理科教師とも、平日と土曜の午前中まで勤務している。２人の話によると、理科教師の数が少な

いため、他の科目の教師が理科を教えることもままあるとのことであった。また、授業がマンネリ化しており、隊員が派遣された場合、新しい授業方法や実験のアイディアが得られるのではないかと両理科教師は期待している。(カリキュラムについては、全国共通のものを利用しており、５年毎に再監修されているとのこと。)

（２）授業内容は理論と実習に分かれており、実験室を見学したが、３０年も前に援助で入った実験器具（顕微鏡・天秤・フラスコ・試験管・試験薬品等）は、戸棚に保存されているものの使用されていない。天秤は一部壊れており型も古いため、正しい重さが量れるか否か定かではない。試験薬品も時代が古い上にラベルが剥がれていて薬品名もはっきりしない状態である。また、２０～３０台のコンピューターもあったが、あまり効果的に使用されていないようであった。視聴覚機材については、当国の電気事情が悪いために、仮に導入すると自家用発電機が必須となるが、それを準備する予算がないとのことであった。

（３）両理科教師は人柄も温厚で、教師経験年数も１０年・１７年と長く、人物面では問題ないと思われるが、同校からの隊員派遣要請は始めてであり、かつ要請自体、以前に専門家が派遣されていた関係で、教育省から校長に下りてきた話であるため、教員には充分に話が伝わっておらず、両教員は協力隊に対してのイメージがつかめていないようであった。調整員が同校長とコンタクトをとろうとする時には、校長は常に不在で、調査団訪問時も面会することができなかった。１１年度春募集要請の中で、現時点で唯一公式要請化されていない配属先でもあることから、先方が積極的に動かないのであれば、隊員派遣を急ぐ案件ではないように見受けられる。

３－１－６　教育文化省第 5-6 地域事務所
（サン・ペドロ・デ・マコリスーコンスエロ）
配属隊員名：松下　高士（１０／１・音楽＜ヴァイオリン＞）

＊事務所長不在のため（多忙で不在が多いとのこと。)、隊員活動についての意見交換は出来なかった。隊員活動現場と自宅を訪問したのみ。

（1）松下高士隊員と練習所のトレーラー式ハウス（プレハブの建物にも似たコンテナ倉庫のような所。）にて面談、同隊員は現在 4 名の生徒にヴァイオリンの指導をしている。ヴァイオリンは、カナダのロータリー財団から寄贈されたもので、隊員赴任後修理して 7 台を使えるようにした。生徒が自宅でも練習出来るように貸出しをしている。

元々は近くの学校でレッスンを始めたが、人だかりができてしまうこと、また音楽室がないことからトレーラーハウスで指導することになった。訪問時、男子生徒を指導中であった。「ド　レ　ミ　ファ　ソ　ラ　シ　ド」の一音階が自然に出せることを目標に繰りかえし指導、曲目はチョウチョを練習していた。隊員が指導する生徒達は時々無断で欠席することもあるが、隊員は月・水・金の午後 1 時から 5 時までの時間帯は、練習所へ行って生徒を待っている。松下隊員は、今後指導対象生徒をもう少し絞ることと、父母会への働きかけを検討している。

（2）隊員の食事の世話もしてくれていた C/P の母親が最近死亡し、相談者もいなくなってしまった。C/P は、結婚して首都の音楽学校で講師として勤務しており、そちらでの業務がメインのため、事実上 C/P 不在の状態である。地域事務所長も C/P 配置の必要性につき認識しているが、適当な人材がいない状態で、かつ隊員がその話をしようにも、所長は多忙で、殆ど事務所に来ない状態である。

（3）隊員は、練習所に通いに来る子供に、個人レッスンを細々と続けている状態である。火・木は町中の音楽学校へ個人的に指導に通い始めたが、そのことは地域事務所長に告げていないとのことであり、所長との関係はあまり深くないことが予想される。

（4）隊員は非常にマイペースな性格で、個人レッスンを黙々と続けることに対して、調整員や当方が思うほど不満には感じていない。隊員自身に現在の状況を何とかしようとのあせりや積極的な姿勢が見られないため、調整員にとっても支援しにくい点があると思われるが、近くの学校や町中で演奏を聞かせる機会をより多く、しかももう少し表舞台で公演できるような機会を増やすこと

が望ましい。このため、調整員も協力して、早い時期に再度隊員と事務所長の協議の場を設ける必要がある。

３－２　JICA プロジェクト方式技術協力との連携

３－２－１　ヤマサ　シエラ・プリエタ展示農場

配属隊員名：池本　理恵（１０／１・村落開発普及員）
　　正木　庸子（１０／１・村落開発普及員）

＊１　プロジェクトサイトであるシエラ・プリエタ展示農場の視察（農場長の案内による）
　２　２名の隊員各自が担当する３カ所の家庭菜園現場と隊員住居の視察
　３　両隊員から意見聴取
を通じて得たことは下記のとおり。

（１）「山間傾斜地農業開発計画」は JICA のプロジェクト方式技術協力で、１９９７年９月から５年間計画で実施されている。１９８７年から１９９２年までの「ドミニカ共和国胡椒開発計画」、１９９２年から１９９７年までの「同計画フェーズ２」により、新規導入作物である胡椒の栽培技術が開発された。その成果を踏まえて、山間傾斜地の小規模農家に同技術を普及し、農家の所得向上・生活改善を最終目標に設定している。

（２）ヤマサ着任後３～４ヶ月間は、隊員は主にプロジェクトサイトの展示農場において胡椒苗の管理や秋植えの準備、ハリケーン後被害を受けた農作物の復興などを技術員・普及員と共に行ったが、その後は農場での活動よりも、技術員達が管理している農場（展示農場外）での作業支援や近郊の農家における上記家庭菜園普及を主に行っている。

（３）両隊員とも担当する農村に深く入り込んでおり、農民と親交を深め、意志疎通も非常に良好である。（スペイン語の上達も早い。）ただし、活動開始当初は、かなりの苦労があった。村人のニーズを探るために村周りをし始めた両

隊員は、「ミシンを買ってほしい。そうでなければ、何をしに来たのか。」という発言に表れているように物質的支援を求められ、ショックを受けたとのことである。当初隊員の活動は、現在実施中の日本のプロジェクトの一環としか考えられていなかった。その反面、プロジェクト実施で近郊の村民も電気が村に通じるなどの恩恵を受けていたこと、また日本人に対する慣れもあり、「家庭での野菜作り」にニーズを見いだして、村周りを熱心に繰り返す両隊員の話に、村民は次第に耳を傾けていったようである。

（4）現在推し進めている活動は、農家女性による家庭菜園の普及で、主人がJICA のプロジェクトサイトに勤務或いは近郊や首都に出稼ぎに出ていて、日中留守を預かる農家の婦人を対象としている。苗はプロジェクトから手に入れたものが大半で、栽培作物はナス、キュウリ、ピーマン、カボチャ、トマト等。隊員は村人から非常に歓迎されており、家庭菜園も小規模ではあるが順調に進行している。今後は堆肥づくりを予定している。家庭菜園の普及は、プロジェクトの矢澤リーダーから勧められたものであり、時折技術面でリーダー、各専門家に指導を仰ぎながら活動を進めている。専門家からも評価の高い２人の村落隊員であり、今後も積極的な活動展開が期待できる。また、最近単車（ホンダ　カブ　５０CC）使用が事務所から認められ、行動範囲が広くなり、巡回指導がより進めやすくなったようであるが、調査団は単車による事故を起こさないよう十分留意してほしい旨、両隊員に伝えた。

（5）JICA プロジェクトの担当部署は農業開発協力部・畜産園芸課であるが、時期を同じくして調査団が派遣されており、今後の方策を協議し、一定の方向付け（専門家同士の連携体制を固める、専門家の担当区分のデマケ、胡椒以外の作物品種の選定等）ができた模様である。

（6）隊員と事務所との連絡はポケベルで行っている。池本隊員が所有しているポケベルが鳴り次第、近所の民家が個人的に所有する無線電話で事務所に連絡する体制をとっている。携帯電話は電波が届かないため使用不可。

（7）９月のハリケーンジョージの被害は甚大で、展示農場や近郊の村落の作物は倒伏し、隊員の住居も水浸しになり、屋根が吹き飛ばされるなどの被害を

受けた。また、その後同地域では２ヶ月間電気がストップしたが、現在では大半が立ち直っている。

３－３　ハイティ国境沿いの隊員派遣予定もしくは派遣中配属先

３－３－１　サン・イグナシオ・デ・ロジョラ農業学校（公立）（１１年度春募集で追加要請が提出される可能性有。）

＊ホセ・ルイス・メサ校長（神父）と面談し、併せて校内の施設を見学した。

（１）校長は温和で、非常に人柄も良い神父であり、調査団との面談後は、校内の教室を利用した住民への説教があるとのことで、丁重な校内案内の後に足早に去っていった。その後続けて案内してくれた別の神父も気さくで好感のもてる人物（コンピュータ、図書管理担当）であった。

（２）生徒は 14～24 歳で約 100 名（内 3分の１は女生徒。日系人子弟が４名就学。)、80％は農家の子弟である。3 年制で、週 6 時間の実習と週 29 時間の講義がある。生徒のレベルはそれほど高くない模様。同校は短大のようなもので、卒業後 1/3 が大学に進学、他は家業を継いで農業に従事する人もいれば、農業とは関係のない民間会社に勤務する生徒もいるとのことである。教員は 14 名（常勤 5 名)、現在ドイツ（DED)のボランテイア（アグロノミスト）がいるが、この 6 月に任期が終了する。また、同ボランティアは講義は担当せず、生徒と共に農場で協力している要素の方が大きいようである。校長は、外国人ボランティアに高いレベルは要求しておらず、生徒と共に親交を深めつつ農場或いは牧場で勤務してほしいと思っているので、仮に要請が公式化した場合も、該当者を確保しやすいのではないかと思われる。

（３）広大な敷地内の農場は約 20 ヘクタールで、水田、野菜畑、果樹園、畜舎等があり、きれいに手入れ・整備されていた。収穫物収入は学校運営資金の一部を担っている。

（4）最近供与された草の根無償の機材（農機具、発電機、コンピュータ、クーラー他約 900 万円相当）が搬入されていた。図書室は外部の学生や研究者にも解放・活用されセミナー等の開催もある模様。

（5）同校には 63 年度 2 次隊の福吉一浩隊員（野菜）が活動していた。隊員派遣要請の職種は、野菜、園芸作物、果樹、家畜飼育（授業も担当するが主として実習への協力）となっているが、校長は特に有機農業（蔬菜栽培）の隊員を強く要望していた。

３－３－２　ロマ・デ・カブレラ畜産協会（NGO）

配属予定隊員：清水　隆博（１１／１・獣医師）

＊ロマ・デ・カブレラ畜産協会の事務所（牛乳集積所）を訪問し、現副会長（前会長）のビエンベニード・エステベス氏（隊員派遣を要望した人物）と面談した。

（1）同畜産協会はロマ・デ・カブレラ地区にある１６０戸の畜産農家で組織する協会で、隊員は酪農家である協会のメンバーの牧場を巡回し、良質の牛乳をより多く確保するために、乳牛の健康状態をチェックし、牛の管理について必要な指導・助言を行うこととなる。カウンターパートがいないため、酪農家が直接の技術移転対象となるが、現在協会役員の息子で有力な獣医候補者が予定されており、隊員の助手として働き技術を学ぶ予定である。現在の問題は、約５千頭の牛の面倒を見るのに、獣医師は農務省地域事務所から来ている１名しかいないことである。

（2）新規派遣であり、面談者の副会長は、具体的に隊員に対する期待がつかめていないようであった。当方から、勤務時間や勤務場所の確認を下記のとおり行った。

ア　現時点ではカウンターパートが不在のため、仮に隊員が何か問題を抱えた場合には、会長に直接相談、また会長に業務報告書を提出する形をとる。
イ　巡回指導のために単車が必要となる可能性が高いが、ガソリン代は同協会が負担する。

ウ　平日の勤務時間は８時から１２時、１４時から１７時までで、土日は休日。
エ　（面談場所が倉庫のようなところであったため、勤務場所・机の有無を確認。）面談場所に隣接したスペースを利用して、執務室を準備、机も用意する。
オ　会長が多忙な場合には、会長以外に６人の役員がおり、彼らに相談できる。隊員の要請を提出する際にも、６人全員の同意を得ている由。

（３）この畜産協会創設に携わった矢野氏は２～３年前に死去し、老齢未亡人の矢野久子さんが畜産協会のメンバーとして残っており、農場も持っているが、未亡人となってからは、農場経営には積極的に関与していない。現在コルマド（雑貨屋）を経営して、生活の糧にしている。副会長面談後、町中にある矢野さんのお宅を訪問し、新隊員派遣の際には現地事情等に関していろいろ助言・協力をお願いした。過去この地方に派遣されていた植林隊員等数名の隊員が矢野さん宅を訪問し、非常にお世話になっていたようである。また、矢野さんは日系移民一世として現地入りし、様々な苦労をされた経験がある。協力隊に対しては、特にその開拓精神に共通点を見いだし、非常に好感を覚えているように見受けられた。

３－３－３　森林総局サバナ・クララ開発計画（レスタウラシオン）

配属予定隊員：永野　武志（１１／２・森林経営）

＊レスタウラシオンのサバナ・クララ開発計画現場を視察し、隊員の派遣に関わる情報を収集した。大元の森林総局長が交代し、それに伴い幹部クラスの人事異動がちょうど行われている模様であった。

（１）サバナ・クララ開発計画は、森林総局が実施している８つの植林計画の内最大規模で、１９７６年に開始された。土壌流出・水源保護の他、貧困対策として、苗木作り・植林・伐採・製材の効果的なサイクルを通じて、森林資源からの収入源と雇用を確保する事業を推進している。なお、首都に森林総局、ダハボンに営林局、レスタウラシオンに営林支所という系列になっており、同開発計画はレスタウラシオン支所の管轄となる。

（２）同開発計画現場は、レスタウラシオンから車で２５分ぐらいの所に位置する。（レスタウラシオンは、ロマ・デ・カブレラから車で３０分。）

（3）レスタウラシオンでも森林総局営林支所長が代わる模様で、支所スタッフには我々の訪問が知らされていなかった。サバナ・クララの現場に行ったことがある矢野さんが同行してくれたため、現場に赴くことが出来たが、今後の同支所の人事異動後の影響には注意していく必要がある。(帰りに同支所に立ち寄った際に、支所職員と同開発計画担当職員（同じ森林総局のスタッフ）の他に、首都の森林総局本部の人事部担当職員が偶然来所していた。当方から、支所長との面談約束が反故にされたことに対し一言抗議した。)

（4）サバナ・クララ開発計画現場の国有林管理事務所（人夫の集合場所。）の近くにも、規模がより大きい苗畑（Cruz de Cabrero：同事務所から川沿いに徒歩 30~45 分、バイクで 10~15 分、普通車では到達不可。）があるが、新隊員はその苗畑をベースに活動することになる模様。住居はレスタウラシオンで探すことになり、JICA 事務所とはポケベルで連絡可能。

（5）視察した現場には簡易な宿泊所が２つ（各々１４のベッドと、２つのベッドがある。）あり、現地のスタッフはそこで寝泊まりしている。確かな通信連絡方法がとれないため、隊員が派遣された場合には、居所をレスタウラシオンに定め、そこから必ず日帰りで現場へ出向くことを遵守してほしい旨調整員に依頼した。

３－３－４　水利庁バラオナ地方潅漑事務所
配属隊員名：品川　具博（１０／２・農業土木）
水利庁ラゴ・エンリキージョ地方潅漑事務所
配属予定隊員：１１／２・農業土木

＊バラオナでは、品川具博隊員の下宿を訪れ面談、翌日水利庁バラオナ地方灌漑事務所を表敬訪問し、グアリオネックス・レガル事務所長と品川隊員の業務に関して話合いを行った。

（1）当面は、ハリケーン災害の復旧が急務となっているため、隊員には、その仕事への協力が期待されている。現在受益者（地域農民）は、建設から維持

管理、修理まで全て灌漑事務所に任せきりの状態であるが、それに見合うスタッフ数の不足、管轄地域の広さ、ハリケーンの影響が甚大であったことなどから、事務所に全て任せきりでは対応できなくなっているという状況である。地域農民の組合組織化についてはハリケーン前から少しずつ進めていたが、ハリケーン被災で中断してしまった。

復旧作業が一段落した後、隊員には組合を組織して、水利庁が建設した灌漑施設を自らの手で維持管理できるようにするためのメンテナンス技術（ハード面）や、組合の組織化・管理（今後の災害に備えて、ある程度の金額をプールしておくような予算管理も含む。）に関するマネージメントの手法（ソフト面）の企画・助言が要望されている。

隊員は現職参加で農業土木の経験も豊富で、即戦力が期待されており、それに見合う十分な技術力を持ち合わせている。また、性格も非常に真面目で、手を付けるべき事が幾らでもあるとの発言もあり、今後の活動展開が期待される。

（2）同事務所長の案内で、ハリケーン災害の現場 3 ヶ所を視察した。現在急ピッチで復旧作業が行われているものの、10 数年来の大災害（風害と同時に年間降雨量（全国平均約 1600mm）の 4 分の 1（409mm）が 1 日で降った）のツメ跡は生々しく、堤防決壊、灌漑水路破損、田畑水没等を引き起こした。土砂・流木・ごみの堆積の排除・復旧にはまだまだ日数を要するものと容易に推測できる。

（3）バラオナから車で３０分ほどの、ハイティ寄り北西に位置するネイバにラゴ　エンリキージョ地方灌漑事務所があり、同事務所へ 11 年度 2 次隊で岡本　努隊員（農業土木）の派遣が予定されているため表敬訪問した。バラオナと状況は同じで、まずは災害復旧が急務とのことであった。

（4）バラオナ、ネイバ地域には JICA の開発調査「ジャケ・デル・スール川流域 M/P,F/P（治水・灌漑）」が行われており、首都の水利庁計画部に灌漑排水の長期専門家が派遣されている。1 ヶ月に 1 ～ 2 度隊員活動現場訪問の機会があり、隊員は時折アドバイスを受けるなど、連絡体制を保っている。

（5）カウンターパートは、灌漑設備を含む農業土木全般の知識を習得する目

的で、JICA 筑波センターで１０ヶ月の研修を受けた経験を持つ。水利庁関係機関では、研修員として来日経験のスタッフが多いとのことである。

３－４　大使館・隊員受入窓口機関表敬

３－４－１　在ドミニカ共和国日本大使館

面談内容：

（１）大使から、ここ２～３年の同国の経済成長ぶりには目を見張るものがあり、道路を始めインフラ整備が進んでいる旨お話があった。特に首都では海岸沿いの高層住宅街が建設ラッシュであり、巷では成金（NEW RICH）の言葉も生まれているとのことである。

９８年は経済成長率８．３％を記録（大使館刊行の「ドミニカ共和国概要」より）し、また、ハリケーン被災後全体的に物価が上昇しており、例えば、以前１本１ペソであった主食の食用バナナが、現在では５ペソ以上になっているとのことである。

（$1=約 RD15.88（ペソ））

（２）田中書記官から、技術協力の窓口となっている大統領府技術庁企画局 ONAPLAN は、現在下記事情から先行きが見通せない不安定な状況にあるが、内部の政府的な思惑や確執もある模様で、JICA 事務所同様大使館も、ONAPLAN 内部事情が落ち着くまでには、まだしばらく時間を要すると予想しており、現状としては静観視するしかないとのコメントがあった。

＊１月末に大統領令が出され、企画局で技術協力を担当していた ROSA 氏が昇進する形で企画局を管轄する技術庁の次官となった。ただし、ROSA 氏の下に部下が配置されているわけではなく、彼女自身が企画庁から飛び出した形で独立しているため、必然的に現在彼女に業務が集中し、非常に多忙になっている。ROSA 氏自身は、JICA のみならず二国・多国間の技術協力に関しては、全て自身が担当すると断言しているが、彼女が抜けた後の ONAPLAN 側でも技術協力に関係する業務を行うと主張しているために、ROSA 氏の言葉とは食い違っており、事態が複雑かつクリアーになっていない状態である。本件に関しては、協力隊のみならず JICA 事業全体に関わる問題であることから、4 月の JICA ミッションの政策協議の協議項目の一つに挙がっている。また、協力隊側では

これまでどおりROSA氏を主な対応窓口とすることを検討中であるが、当然のことながら他JICA事業全体の対応と共通であることが必要である。

（3）今後地方への隊員派遣拡大を検討しているため、今回の調査団行程に地方視察（特にハイティ国境沿い）が多く含まれていることを当方から説明し、特に大使館として隊員派遣に問題があると思われる地域があるか否か念のため書記官に確認した所、特にそのような地域はないとのことであった。但し、例えば地方の山奥深くにたった一人のみ派遣するといった事態は避けてほしい旨言及があった。

他に、ここ1週間で、調査団視察予定地の北部のサルセドやリセイ・アル・メディオ（与党の地盤）で野党のストライキやデモが行われたようであり、交通面でやや支障があるかもしれないとの発言があった。ドミニカ共和国のストライキやデモに関しては非常に平和的でイベント的性格が強いため、特に治安上の懸念はないとのことであった。（実際同地訪問の際、ストライキやデモの影響は見られなかった。）

（4）他に、書記官に同国での協力隊派遣に関するコメントの有無につき確認したところ、今後無償資金協力と協力隊、または専門家と協力隊の連携などJICA事業間の連携体制を進めたらよいとのことであった。なお、大使館では特にシニア海外ボランティアと専門家とのデマケに非常に気を遣っている旨発言があった。

3－4－2　大統領府技術庁

＊1月末に次官に昇進したRosa　Ng.氏と面談した。

（1）Rosa 氏は日本での事業紹介セミナーに参加、3月22日に帰国したばかり。（日本滞在中、JICA でのセミナー参加中事務局で面会できた。）同国における日本のボランティア事業（事務局のボランティア4事業全てがドミニカ共和国では実施されている。）を非常に評価しており、現在の大統領が就任後に公式スピーチで明示した開発重点3分野（ドミニカ共和国には文書で明記された開発計画は存在しない。）である保健・教育・農業の面で、隊員派遣を要望したいとのことであった。ハイティ国境沿いも視察予定であることを説明す

ると、特にその地方は貧困層の多い地域であり、生活改善を目指した協力隊の活動が期待されるとの発言があった。またハリケーンの被害を大きく受けた幾つかの地域名を具体的に挙げ（Vicente Noble:ネイバ近郊、San Juan:ハイティ近郊、Monte Plata:サント・ドミンゴ以北の内陸部、San Pedro de Macoris:１０年度１次隊松下隊員活動中)、そのような地域にも隊員派遣を要望したいとのことであった。

（２）地域の生活向上・発展のために同国ではたくさんの NGO が活躍しており、Rosa 氏の次官という立場上表だってある NGO を推薦することはできないが、JOCV のスタッフとは知己の間柄であり、個人的に助言することはできる、今後ますます JICA 事業と NGO の連携が上手くすすめられることを願っている、との発言があった。

（３）大使館面談内容に記述した大統領府技術庁内部の、当人の人事配置も含めた変革・今後の方向性については、敢えて今面談では触れなかった。

３－５　その他主な調査事項

３－５－１　ラ・ﾛﾏｰﾅ　東部福祉慈善団体「子供の家」「職業訓練校」

（１）　配属先概要・配属隊員名

周辺地域の貧困層の児童を対象に、医療・教育・食事等のサービスを行う通園施設。保育園・幼稚園・小学校の３部門から構成され、対象となる児童は無料で通園可能。現在、児童約９００人、職員約１２０人。米国・ドミニカ共和国の企業の寄付金、個人寄付金を運営資金としている。施設会長は、さとうきび工場のセントラル･ロマーナ社副会長夫人の Sra.Xiomara de Menendez。同じ会長の元に、１９９２年より開校された職業訓練校があり、製菓・洋裁・電気・配管の４科が設置されている。

（子供の家）

保育園部門：中島　里花　（　９／１・幼稚園教諭)、
　　三國　厚子　（１０／２・保母)
小学校部門：山上　恵子　（１０／１・小学校教諭)
調理室部門：盆子原　恵美（１０／１・栄養士)

（職業訓練校）
電気科　　：藤原　千華　（　９／３・電気工事）
配管科　　：長谷部　守　（１０／２・配管）

（２）調査団出張前　事前打ち合わせ概要
（出席者：派遣２課鈴木課長・河野代理・大畑顧問・鈴木）

・ラ・ロマーナは２０００年を目処に隊員派遣を継続しない方向で配属先と事務所で話を詰めているやに聞き及んでいるが、やや唐突の感が否めない。
・特に会長の隊員活動への理解度が高いこと、施設も整っていること、自助努力の意向が伺えること等から隊員の受入体制は整っていると判断されるのではないか。また、以前に事務局前局長が調査団でラ・ロマーナを視察した際には、協力隊員の活動現場として適当との判断も下されている。２０００年という期限を設けて隊員派遣を必ずしも収束させる必要はないのでないか？
・派遣２課としても、必ずしも２０００年収束に反対しているわけではない。が、これまで何代にもわたって隊員がグループ的に継続して派遣されていることと、上記事情を考慮すると、仮に配属先と事務所とのこれまでの協議により、確実に２０００年を目処にして収束する方向で進んでいるのであれば、幕引きをしっかりするべきではないか？
・星川元調整員に確認したところ、赴任後１年目ぐらいに配属先・隊員と今後の派遣計画を検討するために、何度か協議を重ね、その結果約２０００年を目処に派遣を収束する方向で既に検討していたことが判明した。

＊上記（２）経緯により、配属先訪問時に、配属先長の見解と現在活動中の隊員の意向を聴取した後に、改めて事務所と今後の方針を再確認することとした。

（３）　調査団現地視察結果概要

＊ラ・ロマーナの東部福祉慈善団体・子どもの家を表敬訪問し、最高責任者のシオマラ理事長、子供の家校長のオンディーヌ氏と面談出来たため、今後の隊員派遣に関し突っ込んだ話し合いをすることができた。また、留守であった１０／１山上恵子（小学校教諭）隊員を除く６名の隊員と面談した。

ア　同理事長からは「小学校教諭、幼稚園教諭、保母の職種に関しては、これまでの隊員の活動の結果、今後は自分達の力で対応できると考えているため交替要請はしない」との発言があった。中島里花隊員（幼稚園教諭）の活動の評価は高く、C/P から、任期延長の希望が出され、隊員は３ヶ月延長することに決定した。また、「栄養士は必要」との発言もあり、盆子原恵美隊員（栄養士）の交替はありうる（同隊員の活動も高い評価を得ている。）。なお、「聾唖者クラス（45 名）の特殊学級があるが、普通学級の中に視覚障害者がおり、視覚障害クラスの開設を新たに考えているので、視覚・聴覚の分野で協力隊員（養護）を要請したい。」との発言もあった。

イ　生徒数の増加（隊員の話では、過去の 900 名から約 1200 名（乳児 183 名、幼児 400 名、小学生 600 名）に増加。）により、日本大使館の草の根無償による食堂の拡張（2 倍の広さ）工事が行われていた。調理場も機械化が計画されている模様。

ウ　在籍児童数の増加は、労働者数（特に働く母親）の増加の他に、同団体のプロパガンダの大きさが一番寄与している。シオマラ理事長は、ヒラリー米国大統領夫人を招待したり、歌手のフリオ・イグレシアスを呼んでチャリティーコンサートを開いたりと何かと話題を呼ぶイベントを催しており、新聞や雑誌にも顔写真付きで頻繁に報道されるほど存在感のある人物である。ラ・ロマーナはハリケーンジョージによる大きな被害を受けたが、母体であるセントラル・ロマーナ社からの資金援助の他に、その知名度から他国からの支援も多く、復興は非常に早かったことを耳にした。

エ　保育・幼児部門と小学校部門を比較すると、小学校部門の家庭の方が貧困度が高いようである。保育・幼児部門では、３食付きで、6:00 から 18:00 まで子供を預かってくれるが、親が職業に就いていること、週に５０RDpeso（$1=15.88 RDpeso）を納めることが条件となっている。これに対し小学校部門は全て無料であるが、通学可能ラインについては、ソーシャルワーカーが家庭訪問して判断している。児童の親は、近くにある*ZONA FRANCA（ソナ・フランカ）の労働者が大半でセントラル・ロマーナ社の労働者は少ないとのことである。

*ZONA FRANCA（ソナ・フランカ）：保税加工地区。１９６８年の工業投資奨励法と１９６９年の輸出自由加工区法により、外国企業誘致を図る目的で設立された同地区は、ドミニカ共和国内で３０～４０に及ぶと思われる（１９９０年の時点で２５カ所。）が、そこでは衣類、タバコ、皮革製品、電子部品等の業種で輸入原材料を加工し再輸出する企業３２０社以上が進出し、約１５万人を雇用している。台湾、韓国の企業が多く、総生産量の９割が米国向けの輸出である。日本企業では、ワコールが進出している。
（「コロンブスとカリブの国」　角田勝彦著　角川書店　１９９２年発行　から一部引用。）

オ　調理室部門に関し、カウンターパートは基礎的な栄養の知識はあるが、日本の栄養士に必須の集団給食の知識はない。現在の隊員の中心業務は、幼児・小学校部門給食で、野菜やその他の栄養素を多く摂取するよう献立や調理方法を工夫することであるが、隊員活動後、少しずつ献立改善が図られているとのことである。今後は、他の保育園や家庭の訪問を通じて、台所事情を調査し、現在特に調理法がお粗末な保育部門の離乳食を改善したいと考えている。隊員自身は、交代隊員の派遣の必要性を感じておらず、同配属先への派遣より、むしろ地域栄養や公衆衛生等より広い分野で隊員を派遣した方が良いと感じている。

なお、栄養素の高い食事を作ろうとすると、必然的に野菜や他の材料を多く購入する必要があるが、同配属先は、その豊富な資金力故に隊員が希望する材料を比較的容易に手に入れられるため、隊員が希望する献立改善が実際に実現できた。隊員から、他の途上国に派遣されていたら成果としては表れにくかったかもしれない、との発言があった。

一般的に、豊富な資金力を持つ配属先への隊員派遣には疑問の声が挙がりやすい。資金力は、隊員の活動を実りあるものにするために効果的な場合もあるという一例のように思われる。

カ　職業訓練校に関し、授業は昼間部と夜間部に分かれており、現在９／３藤原隊員担当の電気科に、昼間部６名、夜間部２３名、１０／２長谷部隊員担当の配管科では、各部とも４名ずつが在籍している。他の製菓・洋裁部門も含めると、合計１００名の生徒が同校に通学している。

生徒は、週に 50～60RDpeso を納められることと、夜間部に必ず通学できる（昼間は働いていたり、他校に通っていたりする生徒も多い。）ことを通学条件としている。理事長シオマラ氏は訓練校のマネージメントを全て校長に一任しており、調査団面談時も同校への隊員継続派遣については、特にコメントが得られなかった。校長はこれまで同校に派遣された隊員全員と面識があり、隊員活動にも理解があるとのことであった。
両隊員は、現在の問題点として、同校を卒業しても資格が取得できるわけではなく、一種の文化センター化している点と、卒業生の就職率の低さ（一般に、就職はコネがないと難しい。）を挙げていた。同校としては、今後規模・レベルの面で国内一の INFOTEP（職業技術訓練庁）と同じカリキュラムを組むことを予定している。

キ　三國厚子隊員（保母）は少し元気がなく、現在の協力活動に自分自身納得がいかない状態で、悩んでいるように見受けられた。乳児１８３名、幼児４００人の面倒を６時から１８時まで見る保母さんは、皆一様に疲れており、子供にかける愛情が不足していることを、三國隊員は痛切に感じている。また自身の活動もあくまでマンパワー的だととらえている。保母が子どもをたたく、家庭でも母親がたたく様子にショックを受けているとの発言があり、この国で現実に風習化しているものを直そうと１人で立ち向かっても難しいと、大畑顧問から助言があったものの、納得がいかない様子であった。また、幼児用トイレがないため、幼児にバケツで排泄させ、バケツ一杯になると、保母たちがそれをほ乳食を準備している調理室隣の成人用トイレまで、捨てにいっていることも、隊員は衛生上気になっている。

ク　理事は、隊員の意見を聞くと、すぐにそれを実行する面があるが、それは長所と同時に短所にもなりうる。９／１中島隊員の元カウンターパートは、隊員が会議で提案した３日後に、隊員が希望した人物に交代させられた。（最初は元カウンターパート・隊員とも動揺したようだが、元カウンターパートも異動後の新ポストに満足しているとのことで、事なきを得た経緯がある。）また、他にも、同様に隊員の意見で職員の首が切られたケースがあるとのこと。理事が、隊員に全幅の信頼を置いている点は良いが、実際にそれが人事異動につな

がった場合には、隊員が他の職員から恐れられ（実際、「自分は良くやっているか」と隊員に評価を求め、びくびくしている職員もいるとのこと。）、逆恨みされるなど思わぬ問題に発展しかねないため、隊員も人事に関する発言には充分注意する必要がある。

ケ　現在までで合計１９名にのぼる隊員派遣がなされ、自然発生的にグループ化していた面がある。今回の出張で、自助努力出来る分野は自分たちでとの配属先の意向を直接確認することが出来た。隊員の共通の意見もこれに反するものではない。かつ事務所としても、新規の要請が出た場合には、グループを意識するのではなく、あくまで個別派遣と同様の考え方で要請を吟味し、必要と判断すれば要請を提出する方向で良いのではないかと考えている。当方としても、その方向で問題がない旨本部に伝達することを事務所・調整員に報告した。

コ　生活環境に関し、配属隊員は「子供の家」敷地内に、隊員用に提供された住居（居間と台所が共通で、後は人数分の個室有。）で女性５名、男性１名計６名の共同生活を送っているが、語学力の伸び悩み、仕事とプライベートの区別が付きにくいこと、女性隊員が多いことに起因する人間関係構築の難しさから、配属先の外に下宿したいと希望する隊員も多い。配属先からは、外に出て住むのは構わないが、その場合は住居費の負担は一切できない（現在は全て配属先負担。）と言われている。現在調整中である。

３－５－２　サン・ホセ・デ・オコア養護学校
配属予定隊員名：山藤　守代（１０／３・養護）

（１）校長、及び主に宮城県で１０ヶ月の養護の研修を受けた養護教諭（隊員のカウンターパート予定者）並びに女性教師３名と面談した。

（２）生徒の数は約２１０名で更に増加中。校舎は元コーヒー倉庫だったものを改造し、仕切をした簡易な作りである。授業は午前・午後の２部制である。近い将来、学校附属の作業所（縫製、手工芸品の作成等。）を設置予定であり、そこでの障害児に対する指導を隊員に期待したい旨発言があった。首都にある

リハビリテーション協会（１０／２の養護・手工芸隊員が活動中。）には作業所が設置されているため、１０／３山藤隊員が現地語学訓練中に、必ずそこを見学するよう伝達することを約束した。

（３）山藤隊員の下宿先は、カウンターパートの家が予定されているが、これは隊員の意見により、調整が必要となることもありうる。カウンターパートは穏和な人柄でやる気も十分、かつ日本に興味を抱いているので、仕事面では恵まれたカウンターパートと思われるが、プライベートも含め常時カウンターパートと一緒に過ごすことになるため、双方にとっていずれ気詰まりな状態にならないか気がかりな点もある。

３－５－３　エルマンダ（ロス・コロッソス村）
配属隊員名：河野　将史（８／３・果樹）

＊サン・ホセ・デ・オコア養護学校から約２０km 山間地に入り（車で約４０分。）、標高 850m の所にあるロス・コロッソス村で活動中の８／３河野隊員の活動現場を視察、配属先関係者と面談した。

（１）河野隊員は非常に活発で、積極的である。山小屋のようなカウンターパートの家に下宿している。現在は２人の農民に有機野菜栽培、ボカシ肥の作り方を指導している。また、堆肥小屋（支援経費で完成）の横手の寒冷紗で囲った一角でトマトの苗づくりを試みていた。（小さな白い蚊（モスキート・ブランコ）がトマトの苗に有害なウィルスを伝染させ全滅させてしまうため、ある程度苗が育つまで、囲いと日陰で保護する。）

（２）河野隊員が任地入りした当初は、配属先 NGO エルマンダの植林・果樹のプロジェクトはほぼ終了していた。（植林には何本植えれば完成というノルマあり、そのノルマを達成した時点で自然消滅的にプロジェクトは終了とのこと。）この地方の農民は当時も野菜作りを行っていたが、農薬や化学肥料購入の出費が多く、利益がほとんど得られなかった。隊員はその出費を抑え、かつ身体にも良いと考えられる有機農法を推進した。生産品の販路は自給自足の他、サント・ドミンゴのスーパーマーケットへ出荷する等販売ルートを開拓した。

サン・ホセ・デ・オコアや首都から来る買物客も稀にいるとのことである。河野隊員は半年の任期延長をしており、その間にボカシ肥の作り方をしっかり指導すること、また販路を更に広く開拓して帰国したいと話していた。

（3）配属先のエルマンダは、村落総合開発の内、飲料水・衛生・植林・農業の４つの分野に力を入れており、隊員活動地域以外での活動をメインに実施しているようである。USAID や米国農務省から予算が獲得できれば、1999 年 7 月から農業プロジェクトを実施する予定である。配属先長から、河野隊員が有機農法普及に力を入れていることもあり、有機農業もプロジェクトで取り組みたいとの発言があった。エルマンダはドミニカ共和国支部担当者が最近交替したばかりで、まだ年も若く人脈も前任に比較するとないことから、本部ニューヨークから予算が予定どおり獲得できるのか不安な点もある。隊員は同 NGO に配属になってはいるが、当初から特にプロジェクトの一員として活動しているのではなく、プロジェクトの目標である「山岳農業分野の総合開発」に沿った形で、独自の活動を展開していった。

（4）河野隊員の後任は現時点では必要ないと思われるが、仮に派遣するとすれば、有機農業普及と市場ルート作りの面で貢献できるような村落開発普及隊員が想定される。（河野隊員は、可能性として野菜、農業土木、市場調査の職種を挙げていた。）

（5）生活環境に関しては、配属先エルマンダの飲料水プロジェクトにより、管轄下の１２村に飲料水用タンクが設置されたおかげで、ひどい乾季に見舞われない限りは、ある程度の水は確保できるようになった。電気は村に通じていない。ラジオを聞くことはできる。事務所とは、ポケベルを受けた後、家から５００ｍほど離れた所にある配属先事務所の無線電話で連絡をとっている。

３－５－４　厚生省ヴァルヴェルデ県事務所
配属隊員名：矢田　涼子（９／１・保健婦）

＊当地を訪問した理由は、過去に平成８年度 WID 関連特別機材供与として搬入された保健衛生指導用機材（ソーラーパネル・充電コントローラー・インバーター・バッテリー・冷蔵庫）が、当国の電気事情等諸々の事情から動いておらず、その機材の今後の扱いについて実際に現場を見て隊員から意見を聴取する必要から訪問したものである。所長は不在のため、監督官・矢田隊員と面談した。

（１）矢田隊員の活動は配属先幹部・スタッフから非常に高い評価を得ている。監督官は、例の特別機材一式に関して、故障しているので何とか修理してほしいと要望してきた。今回のミッションはその目的ではないことを伝え、現場の状況を隊員から聞き、必要であれば本部に伝達すると回答した。重ねて、機材に問題があることにより同じ JICA 事業である協力隊のプログラムに何ら問題が生じるわけではなく、矢田隊員の活動評価とは全く別物であることを念のため強調したところ、勿論それは承知しているとの回答があり、矢田隊員の熱心な仕事ぶりには感謝しているとの発言があった。現在行っている麻疹ワクチン集中接種でも、矢田隊員が中心になって活躍しているとのことで、監督官からは延長希望を仄めかすような発言も出た。

（２）矢田隊員が管轄する保健所の一つを視察した。当初、本件機材の扱いに関しては、１０年度フォローアップ事業で新しい機材を現地調達する方向で、事務所から企画部宛に打診があったが、フォローアップ事業では対応不可とのことで、調査団派遣前の段階では、協力隊予算（特別機材 WID 関連）で対応する方向性を検討していた。ただし、隊員は申請自体をためらっている。元々機材が導入された診療所は隊員巡回先の８カ所であったが、その後の組織改革により、厚生省管轄下の地域事務所は全て県事務所になり、右に伴い各県事務所の管轄区域も変更したため、隊員はその内の４つの診療所のみ巡回することになった。よって、今回機材を新たに導入する場合、隊員巡回先の４診療所のみになるが、隊員は４カ所のみ新機材を導入し、他４カ所はそのままにしておくことに納得がいかず、また、７月に任期終了のため、隊員帰国後現地の人達だけでメンテナンスが可能か非常に疑問が残るため、申請を躊躇している状態である。

隊員に申請の意向を再確認したが、申請するか否かについては、もう少し考

えさせてほしいとのことであった。(調査団帰国後、事務所にその後の状況を照会したところ、矢田隊員に支援経費申請の意志がないことを確認した。)

３－５－５　緊急時の連絡体制

（１）ポケベル貸与中隊員３名（ポケベルは第１に携帯より感度が良いこと、第２に近所に使用可能な電話があることが特徴である。)

ア　１０／１池本　利恵（ヤマサ）
　ポケベルで直接本人に連絡を取り、地域住民（医師や雑貨店（コルマド）経営者）の持つ個人的な無線電話にて返答する方法をとっている。(２人共通の用件の場合には、ポケベルを受け次第、池本隊員から１０／１正木隊員に伝達する。)
イ　８／３河野　将史（サン・ホセ・デ・オコア）
　地域的に山岳部の村落に位置し、ポケベルで直接本人に連絡を取り、配属先エルマンダ　事務所にある無線電話にて返答する方法をとっている。
ウ　１０／１松下　高士（サン・ペドロ・デ・マコリスーコンスエロ）
　配属先である教育委員会への電話連絡は可能であるが、本人のレッスン場までは離れている。事務所からの一方的な伝言は可能であるが、伝達までに相当な時間がかかることから、常に事務所側からの連絡を受け取ることが出来るポケットベル貸与を行っている。

＊以下、今後派遣予定の地域
エ　１１／１　獣医師（ロマ・デ・カブレラ）
オ　１１／２　森林経営（レスタウラシオン）
　ポケベル使用可。公衆電話が町中に一つあるが、電話がある民家に下宿できるか否かは、現時点では不明。首都・ダハボン・レスタウラシオン間は、公衆電話あるいはレスタウラシオンの森林総局支所の隣にある軍関係の施設に設置してある無線電話で連絡を取っている模様。)
カ　１１／２　農業土木（ネイバ）

（２）携帯電話貸代中隊員１名

ア　１０／２　中島　恵（ハラバコア）

市から約６キロ離れた郊外に位置する森林学校敷地内の職員住宅に住んでいる。携帯貸与前は、まず首都の本部に事務所から電話連絡を入れ、伝言を依頼し、無線により学校へ連絡が伝わり、その返答を待つ状態であったため、連絡を取るのが困難であった。近くに通常の電話がないためポケットベルは不可。

（３）その他の隊員については、現在大多数が職場にも下宿先にも電話がある。一部は下宿先で、階下から呼び出してもらう。サマナの１０／２仲野隊員（看護婦）の場合には、病院の院長先生の携帯電話にかけて呼び出してもらう形をとっている。

３－５－６　米国平和部隊（American Peace Corps）関連情報

＊ドミニカ共和国には米国平和部隊（以下 APC）も活動を展開しており、協力隊調整員に米国平和部隊事務所訪問の上、緊急時の連絡体制や現地訓練等以下の６点に関する情報収集を依頼した。調査団帰国後、JICA 事務所から得た情報は下記のとおり。

（１）協力隊との活動上の連携の有無

保健省、森林総局、サルセド開発事務所、NGO エルマンダ、プラン・コルディジェラ等、協力隊員と同配属先のボランティアはいるが、特にこれといった連携は見られない。また、約２年前に一部の協力隊員から自主的に声をかけて親善野球試合を行ったが、それ以降特にこのような動きは見られない。

同じボランティア事業として、APC 事務所長、副所長ともに協力隊員との月例ミーティング等を実施して、情報交換を図っていきたいと考えている。

（２）緊急時の連絡体制

別紙１の書類をもとにしており、連絡手段は電話かポケットベル。各地域ごとに代表を決め、緊急時はその代表に連絡をすると各地域のメンバーの所在を把握できる体制をとっている。メンバーは常に事務所からの連絡を待つ受け身の状態ではなく、自発的にコンタクトを取るよう意識づけられている。また、

ミーティング場所（屋根があり、ランドマークとなり得るホテルや学校、協会など。）を決め、非常時には、そこに集合することとしている。

なお、地方・国境付近への APC 派遣については、特に留意している点はない。むしろ政治色の強いナグアやサン・フランシスコ・デ・マコリス等に注意している。

（3）現地訓練

任国到着後、学校等既存の研修所を利用して、現地インストラクターによるプロジェクト・プランニング手法や保健衛生、生活習慣等を３ヶ月間学ぶ。その際、数日間は各 APC のカウンターパートも参加する。

語学訓練に関し、本国出発前は、各個人が独力で語学を習得する。赴任直後に語学訓練の時間は全くなく、６ヶ月後に１週間のマン・ツー・マンのスペイン語訓練を受ける。

（4）事務所ローカル・スタッフ

各分野（教育・衛生・商業・環境・農業）にそれぞれプログラム・マネージャーがおり、全員ローカルで、１６年の在勤経験を持つ者など、プロフェッショナルな人材も多い。

米国本国採用は所長・副所長とプログラム・マネージャー（上記とは異なる。）１名のみ。経理・健康管理など全てローカルスタッフが担当している。（米国在住歴のあるドミニカ人は多く、英・西語のバイリンガルスタッフを揃えるのは困難ではない。）

（5）支援経費の有無

無し。APC 側、配属先双方とも予算があるとは認識していない。ただし年度ごとに特定分野に限って予算が計上されることもある。ただし、申請から承認まで時間も手間もかかるため、あまり積極的に利用されていない。また、協力隊の「小さなハートプロジェクト」に類似した、本国の各種団体に呼びかけて寄付などを募るシステムもある。

（6）APC 派遣状況及び実績

別紙２のとおり。なお、配置図は作成していない。

別紙 1

USE BLACK INK only !!!!! As of Date: _____ 1/2

EMERGENCY LOCATOR FORM (ELF)

This is a Mandatory Form directly related to your Safety. It also allows PC to reach you if you have a family or other Emergency. It could save your life and/or the live of others. Your complete cooperation is needed and counted upon by PC and also by your MiniVAC. An incomplete form will result in your being called to the capital, at your expense, to address the issue with the CD. An original form (not fax) must be submitted to Diana Sención.

1. Name of PCV: _____ Beeper No.: _____

- Name of Community/Pueblo: _____ Province: _____
- Street Address (if you have one): Mailing Address (if not PC office):

2. On the Back of this form, please draw a detailed Map showing how to get to your house, and the nearest point where a helicopter might land. (Please include WRITTEN instructions in English and Spanish)

3. In order for your form to be considered complete, you must identify at least one telephone number where you can be reached. If you do not have a phone near you, provide the telephone number of a person or business that PC can call to send you a message. BE SPECIFIC.

Work: _____ Work FAX: _____
Home: _____ Other (define) : _____

To Send a Message Call:

Sr. o Sra.: _____ Tel.: _____

How long will it take for you to get the message? _____

4. If there is a nearby office of Police, Defensa Civil or FORESTA, please provide phone and fax numbers for each one.

Policia _____ fax _____ FORESTA _____ fax _____

Defensa Civil _____ fax _____

Note: If any of these groups are connected by wireless Radio, please provide the radio numbers that we can call to: _____

5. Please provide the fax number of the CODETEL office closest to you (if you do not know the number please provide the name of the town). If you will receive faxes somewhere else please indicate.

FAX: _____ City/Pueblo: _____ How often you check _____

- Do you listen to a local radio station and, if so, what is it: _____
- Nearest airport _____
- GPS Coordinates to land a helicopter (if known): _____

6. IS THERE ANY OTHER WAY TO REACH YOU?

7. MAP and Directions to your site in English & Spanish. (If you need to add a separate sheet for the map, make sure your name is on it and the date: (Remember - USE BLACK INK only !!!)

2/2

*Remember - If you move, you must submit a new form immediately. Even if you are in a temporary site, you must also submit an new orignial ELF form which indicates where you are until you move to a permanent site. If you change your phone number or find a more efficient method to contact you, it may be possible to make changes on the original ELF form. However, it must be very clear to any reader.

*Ojo!!! Important note! -You must have an up-to date ELF form and Quarterly Report to be approved for vacation leave.

(PCDR - 2/99)

PEACE CORPS
IN-COUNTRY PCVS AS OF MAR 31 99

Health

Code	Name	cos	Manager	Mail Add	Mail City	Province	Telephone Office	Home	Emergency	Fax
806	Addess, Meredith I	OCT 17 99	León	Voluntario Cuerpo de Paz	La Pascuala	Samaná				538-2545
903	Allen, Justin	OCT 16 00	León	Consejo Provincial de Dess.	Zumbador	Monseñor Noel	525-6639		559-5202	559-5275
898	Betchkal, Laura C	OCT 16 00	León		Moca	Espaillat	578-9009	252-1375	578-5622	578-9009
799	Cardenas, Wendy E	OCT 17 99	León	Voluntaria Cuerpo de Paz	Rancho Español	Samaná			538-2115	538-2545
800	Chimnani, Jaya	OCT 17 99	León	Voluntaria Cuerpo de Paz	Barrio Las Quinientas, Nagua	Maria Trinidad Sánchez		248-5106		584-3211
807	Collins, Ethan M	OCT 17 99	León	Voluntario Cuerpo de Paz	Galván, Neiba	Bahoruco		248-1033		527-3536
815	Curtis, Joshua D	OCT 17 99	León	Voluntario Cuerpo de Paz	Carrera Bonita, Yabonico	Las Matas, San Juan	557-2898		557-2898	527-5665
914	Dachik, Carey	OCT 16 00	León		Salamanca, Jacagua	Santiago			275-1356	583-8464
904	Douglas, Sascha	OCT 16 00	León		Valle Nuevo, Loma de Cabrera	Dajabón				579-4566
801	Ferguson, Robin M	OCT 17 99	León	Voluntaria Cuerpo de Paz	Bani	Peravia			522-5812	
909	Freeman, Leif S	OCT 16 00	León		Navarrete	Santiago			282-3470	585-8348
899	Freilich, Carol	OCT 16 00	León		Manabao, Jarabacoa	Santiago			574-6292	574-4303
809	Haggerty, Ann E	OCT 17 99	León	Voluntaria Cuerpo de Paz	Sabaneta	Santiago Rodríguez	580-4000		580-2733	580-2000
714	Kang, Kim	NOV 23 99	León	Santo Domingo	Santo Domingo	Distrito Nacional		682-2857	682-2857	686-3241
820	Kelley, Quentin	OCT 17 99	León	Voluntario Cuerpo de Paz	Los Fríos, Arroyo Cano	San Juan de la Maguana	557-2898			557-4823
802	Kerschen, Deanna L	OCT 17 99	León	Voluntaria Cuerpo de Paz	Los Anónes	San José de Ocoa				558-2903
811	Kerschen, Joshua A	OCT 17 99	León	Voluntario Cuerpo Ocoa	La Ciénega	San José de Ocoa			558-3059	558-2903
816	Knowless, Daniel F	OCT 17 99	León	Voluntario Cuerpo de Paz	La Coraza, El Cercado	San Juan de la Maguana	557-2898		558-0215	558-0018
810	Miller, Kathleen T	OCT 17 99	León	Cons.Dess.Monseñor Noel	Bonao	Monseñor Noel	525-6639		248-4992	525-3022
900	Padilla, Sara K	OCT 16 00	León		El Llano	Monseñor Noel	525-6639		525-5365	525-3022
910	Perez-Arrieta, Joaquin	OCT 16 00	León		La Cumbre	Santiago		344-7616		583-8464
915	Perez-Arrieta, Stephanie	OCT 16 00	León		La Cumbre	Santiago				
812	*Richmond, Georgia S*	*OCT 17 99*	*León*	*Voluntaria Cuerpo de Paz*	*Bajabonico Arriba, Altamira*	*Puerto Plata*		612-0918	344-7523	571-7290
907	Rivera, Alicia	OCT 16 00	León		Manabao, Jarabacoa	La Vega	578-8370		578-8370	578-8396
803	Roberts, Allendro T	OCT 17 99	León	Voluntario Cuerpo de Paz	Los Ríos, Neiba	Bahoruco		844-6632	481-5568	527-3536
908	Rollins, Rebecca B	OCT 16 00	León		San José de las Matas	Santiago				
804	Salomone, Gina M	OCT 17 99	León	Voluntaria Cuerpo de Paz	Santo Domingo	Distrito Nacional	685-6824	561 8899	561-8899	
805	Schacker, Rebecca R	OCT 17 99	León	Voluntaria Cuerpo de Paz	La Descubierta	Independencia			481-5568	527-3436
901	Sexton, William M	OCT 16 00	León		Restauración	Dajabón			579-4572	579-4566
902	Shanks, Gretchen	OCT 16 00	León		Rio Limpio	Elías Piña				579-4566
813	Stewart, Heather M	OCT 17 99	León	Voluntaria Cuerpo de Paz	Los Cacaos	Samaná			248-5098	
817	Williams, Krystal D	OCT 17 99	León	Voluntaria Cuerpo de Paz	El Jamo, Jacuagua	Santiago			583-3042	
913	Wong, Alice	OCT 16 00	León		Jacagua	Santiago			275-1099	583-8464
818	Wortman, David M	OCT 17 99	León	Voluntario Cuerpo de Paz	Boca de Humo, El Cercado	San Juan de la Maguana	557-2898		558-0215	558-0018
Total	34									

別紙 2
1/5

PEACE CORPS
IN-COUNTRY PCVS AS OF MAR 31 99

Code	Name	cos	Manager	Mail Add	Mail City	Province	Telephone Office	Home	Emergency	Fax
759	Bernstein, Cheryl S	MAY 23 99	Valerio	Voluntaria Cuerpo de Paz	Esperanza	Valverde Mao	585-8060		585-8966	585-5516
760	Bosy, Mary F	APR 24 99	Valerio	Voluntario Cuerpo de Paz	Hato Mayor	Hato Mayor	553-3411		553-3153	553-3300
825	Bruch, Olivia C	MAY 22 00	Valerio		San José de Ocoa	Peravia	558-2346		558-2527	558-2168
751	Dolphin, Heather L	APR 30 99	Valerio	Voluntaria Cuerpo de Paz	Villa Elisa	Monte Cristi	248-7344		343-0799	579-6318
828	Fernald, Laura A	MAY 22 00	Valerio		Mao	Valverde Mao	572-7415	345-0602	572-3776	572-3061
762	Foley, Siobhan M	MAY 10 99	Valerio	Voluntaria Cuerpo de Paz	Santiago Rodriguez	Santiago Rodríguez	580-4273	580-2732		580-2000
829	Grant, Sally B	MAY 22 00	Valerio		Azua	Azua	521-3966	521-2272	521-3251	521-3094
669	Greenman, Jennifer J	APR 2 99	Valerio	Voluntaria Cuerpo de Paz	Santo Domingo	Distrito Nacional		682-5933	539-2592	686-3241
830	Harris, Katherine A	MAY 22 00	Valerio		Santo Domingo	Distrito Nacional	682-1616	395-4598		682-1813
831	Harris, Meredith L	MAY 22 00	Valerio		Yamasá	Monte Plata				
832	Hazelwood, Catherine E	MAY 22 00	Valerio		Tenares	Salcedo	587-7671	221-2682	587-7517	587-7000
753	Kennedy, Matthew J	MAY 23 99	Valerio	Voluntario Cuerpo de Paz	Bonao	Monseñor Nouel	525-5361	525-4654	248-7730	525-3022
835	Koen, Joshua A	MAY 22 00	Valerio		Los Alcarrizos	Distrito Nacional	682-1616	844-9332	564-8906	682-1813
836	Lechner, Wendy S	MAY 22 00	Valerio		Baní	Peravia	522-3820		522-8491	522-5210
764	Machado, Linda R	MAY 7 99	Valerio	Voluntaria Cuerpo de Paz	Cotuí	Sanchez Ramirez			585-2417	585-2676
677	Martinez, Deborah K	MAY 30 99	Valerio	Centro de Recursos	Loma de Cabrera	Dajabón	579-4708	579-4378	579-4308	579-4489
839	Mathews, Samantha A	MAY 22 00	Valerio		Sabana de la Mar	Hato Mayor	556-7820		556-7313	556-7907
766	Miller, Samantha L	APR 24 99	Valerio	Voluntaria Cuerpo de Paz	Cabrera	María Trinidad Sánchez	589-7735		589-7574	589-7400
838	Miller, Markia M	MAY 22 00	Valerio	Ctro. de Recursos	Samaná	Samaná	538-2847			538-2847
840	Mitchell, Kara D	MAY 22 00	Valerio			Puerto Plata	586-2020		345-0464	
767	Moberg, Roberta L	JUN 1 99	Valerio	Voluntaria Cuerpo de Paz	Santo Domingo	Distrito Nacional		682-5933		
853	Peters, Mona R	MAY 20 00	Valerio	Santo Domingo	Santo Domingo	Distrito Nacional	685-8532		687-6037	
852	Pfeiffer, Krista A	MAY 22 00	Valerio		La Javilla	Santiago	580-7712			
851	Powers, Jane E	MAY 22 00	Valerio		Haina	San Cristobal			541-0918	542-3374
859	Ramirez, Marybell	MAY 22 00	Valerio		Nagua	María Trinidad Sánchez		584-2766	584-2009	584-3211
769	Rounds, Julia K	APR 24 99	Valerio	Voluntaria Cuerpo de Paz	El Seibo	El Seibo	552-4927		552-3334	552-3400
856	Suarez, David F	MAY 22 00	Valerio	Centro de Recursos	Miches	El Seibo	553-5736		553-5366	553-5252
756	Tatum, Kristi M	MAY 23 99	Valerio	Voluntaria Cuerpo de Paz	Martin García	Monte Cristi			471-1715	580-2000
757	Weglarz, James E	MAY 23 99	Valerio	Voluntaria Cuerpo de Paz	El Factor, Nagua	María Trinidad Sánchez	589-9659		589-9497	584-9548
857	Wells, Carolyn M	MAY 22 00	Valerio		Rincón	La Vega	577-8553		577-8279	573-4242
861	White, Shelby E	MAY 22 00	Valerio		Rio San Juan	María Trinidad Sánchez	589-2845	589-2458		589-2600
758	Yu, Seung C	MAY 16 99	Valerio	Voluntario Cuerpo de Paz	Los Toros	Azua	521-4811		521-4811	521-3094

Total 32

2/4

PEACE CORPS
IN-COUNTRY PCVS AS OF MAR 31 99

Business

Code	Name	cos	Manager	Mail Add	Mail City	Province	Telephone Office	Home	Emergency	Fax
879	Amerson, Delayzio	OCT 16 00	Hogan	Cámara de Comercio	San Cristóbal	Distrito Nacional	528-2054	844-1636	528-9396	528-4288
880	Bankston, Rebecca	OCT 16 00	Hogan	COOPSEMUE	Santo Domingo	Distrito Nacional	685-4761			689-7653
881	Basta, Joseph H	OCT 16 00	Hogan	Ctro. de Promoción Social	Pimentel	Duarte	584-5552			584-5782
786	Breckenridge, Olga K	OCT 17 99	Hogan	CONACADO	Joba Arriba, Moca	Espaillat	696-0365			587-2550
882	Brown, Patricia H	OCT 16 00	Hogan	Micro/Orphanage	Monte Cristi	Monte Cristi	579-2510	579-3330	579-2937	579-2100
883	Cangemi, Laura M	OCT 16 00	Hogan	ACALEN	Nagua	María Trinidad Sánchez	584-2797			584-3211
787	Dunkin, Jared I	OCT 17 99	Hogan	Cámara de Comercio	Puerto Plata	Puerto Plata	586-2390	586-7623		320-8407
886	Geary, Joel D	OCT 16 00	Hogan		Monte Grande	Dajabón			579-4572	579-4211
788	Hardwick, Randy	OCT 17 99	Hogan	COIN	Santo Domingo	Distrito Nacional	681-1515	221-8379	221-8379	
789	Hawkinson, Jeffrey	OCT 17 99	Hogan	Cuerpo de Paz	Bonao	Distrito Nacional	525-5047			525-2708
790	Heiman, Daniel B	OCT 17 99	Hogan	Voluntario Cuerpo de Paz	El Factor, Nagua	María Trinidad Sánchez			589-9509	589-9548
888	Lee, Heather	OCT 16 00	Hogan	Cooperativa Servicio Multiples	Pedro García	Hato Mayor	226-7002		226-7068	583-8464
792	Micek, Timothy P	OCT 17 99	Hogan	Cámara de Comercio	San Juan	San Juan de la Maguana	557-2382		557-3709	557-4061
889	Rance, Ralph R	OCT 16 00	Hogan	Coop. Vega Real	La Vega	La Vega	573-4258	345-6771	574-4193	573-4568
796	Reed, Andrew S	OCT 17 99	Hogan	CEBSE	Samaná	Samaná	538-2240			538-2545
891	Rollins, Laddie M	OCT 16 00	Hogan	Asoc. de Desarrollo	San José de las Matas	Santiago	578-8249		578-8556	578-8396
892	Sand, Jessica K	OCT 16 00	Hogan	Asoc. Ecoturismo	El Limón	Samaná				538-2545
893	Santin, Kristin S	OCT 16 00	Hogan	Fund. Dom. Desarrollo	Santo Domingo	Distrito Nacional	688-8101			686-0430
894	Saulnier, Marc C	OCT 16 00	Hogan	Fund. Dom. Desarrollo	San Juan de la Maguana	San Juan de la Maguana	557-6545	844-5787		557-6545
895	Sharli, Asif	OCT 16 00	Hogan	Cámara de Comercio	Santiago	Santiago	582-2856		247-2524	241-4546
797	Sims, Jade M	OCT 17 99	Hogan	Cuerpo de Paz	Puerto Plata	Puerto Plata	586-2638	586-2020	345-0464	586-2638
896	Skucek, Alexander M	OCT 16 00	Hogan	Cámara de Comercio	Sabana Perdida	Distrito Nacional	590-1212			
897	Waters, Christopher E	OCT 16 00	Hogan	Junta de Asoc. de Agricultores	Loma de Cabera	Dajabón		579-4572		579-4283
734	Williams, Darrell G	APR 23 99	Hogan	Santo Domingo	Santo Domingo	Distrito Nacional	685-4102			

Total 24

47

3/5

PEACE CORPS
IN-COUNTRY PCVS AS OF MAR 31 99

Agriculture

Code	Name	COS	Manager	Mail Add	Mail City	Province	Telephone Office	Home	Emergency	Fax
863	Baumgart-Getz, Adam	OCT 16 00	Ripol	SEA	Los Naranjos	Azua	521-0232	521-0492		521-0450
865	Berryhill, Marian E	OCT 16 00	Ripol	ADESJO	San José de Ocoa	Peravia			522-4571	558-2903
864	Bertels-Boener, Heidi M	OCT 16 00	Ripol	SEA	Cañafistol	Bani				
779	Burritt, Neal G	OCT 17 99	Ripol	Cuerpo de Paz	Las Caobas, San José de Ocoa	Peravia	558-2527	558-2346		522-5210
772	Butler, Justin E	OCT 17 99	Ripol	Voluntario Cuerpo de Paz	Colonia Japonesa	Dajabón			248-6762	579-8481
868	Drga, Kalima J	OCT 16 00	Ripol	SEA	Las Lagunas, Padre Las Casas	Peravia			521-0232	521-0450
869	Facer, George M	OCT 16 00	Ripol	SESPAS	Las Terrenas	Samaná	240-6474		240-6207	240-6070
775	Godin, Vernon D	OCT 17 99	Ripol	Voluntario Cuerpo de Paz	Los Ranchos, San José de Ocoa	Peravia			558-2346	522-5210
870	Lee, Sang E	OCT 16 00	Ripol	SEA	Padre las Casas	Peravia		521-0232	521-0492	521-0450
782	May, Danielle C	OCT 17 99	Ripol	Voluntaria Cuerpo de Paz	Monte Bonito, Padre Las Casas	Azua		521-0492	521-0232	521-0450
871	Miller, Andrew J	OCT 16 00	Ripol		Loma de Cabrera	Dajabón	579-4308			579-4283
783	Mullins, Melissa K	OCT 17 99	Ripol	Voluntaria Cuerpo de Paz	La Vigia, Dajabón	Dajabón			248-6762	579-8481
722	Multis, Kristie L	MAY 4 99	Ripol	PCVC	Santo Domingo	Distrito Nacional	685-4102	221-8379		686-3241
873	O'Keeffe, Gemma	OCT 16 00	Ripol	CBO	Los Naranjitos, Sánchez	Samaná	240-6207			240-6070
724	Olsen, Emily M	APR 23 99	Ripol	SEA	Los Puentes	Samaná			240-6207	240-6070
866	Petersen, Ronald A	OCT 16 00	Ripol	IAD	La Guanabana	Azua		360-1416		521-3094
874	Price, Tricia	OCT 16 00	Ripol	IAD	Proyecto 2	Azua		360-1416	248-4959	521-3094
875	Proaño, David	OCT 16 00	Ripol	ADESJO	Los Martínez	San José de Ocoa			777-0839	522-5210
876	Rembert, Cecelia W	OCT 16 00	Ripol	IAD	Cañongo	Dajabón			248-0196	579-8481
867	Richards, Bridgette	OCT 16 00	Ripol	SEA	Cruce de Arroyo Hondo	Baní			310-9242	522-5210
784	Spagnuolo, Diana L	OCT 17 99	Ripol	Voluntaria Cuerpo de Paz	El Llano, Bani	Peravia		522-3018		522-5210
877	Szymanski, Luke M	OCT 16 00	Ripol	IAD	El Limón	Samaná				240-6070
785	Williams, Lloyd C	OCT 17 99	Ripol	Voluntario Cuerpo de Paz	La Siembra, Padre Las Casas	Azua				521-0450
Total	23									

4/4

PEACE CORPS
IN-COUNTRY PCVS AS OF MAR 31 99

Environment

Code	Name	cos	Manager	Mail Add	Mail City	Province	Telephone Office	Telephone Home	Telephone Emergency	Telephone Fax
827	Callaghan, Daniel P	MAY 22 00	Rodriguez		Montecristi	Montecristi	579-9526		579-3134	579-2100
748	Fowler, Alexandra M	MAY 10 99	Rodriguez		La Jinita, La Piña	Santiago Rodríguez			580-2920	580-2000
743	Garrahan, Danielle J	MAY 23 99	Rodriguez		Loma Prieta, Bonao	Monseñor Nouel	343-2801		248-7650	525-3022
770	Gates, Joshua L	MAY 23 99	Rodriguez		Nagua	María Trinidad Sánchez	584-2747	584-2284	584-2747	584-3211
744	Haldeman, Shari L	MAY 23 99	Rodriguez		Tocoa, Maimón	Monseñor Nouel				551-2424
833	Hoover, Heidi M	MAY 22 00	Rodriguez		Brisas del Yuna, Bonao	Monseñor Nouel	471-1539	525-8835		525-3022
746	Jegerski, Jill C	AUG 23 99	Rodriguez	APDO 414, Salcedo	Montellano	Salcedo			577-3796	577-2196
837	Lee, Colin K	MAY 22 00	Rodriguez		Jumunuco, Jarabacoa	La Vega	574-2740		574-2121	574-4303
749	Massey, Sharyl M	MAY 28 99	Rodriguez	Av.Juan Pablo Duarte	Pedro García	Santiago	226-7002	226-7020	226-7019	
842	Maybury, Charity L	MAY 22 00	Rodriguez		Yamasá, Monte Plata	Distrito Nacional	525-0518	525-0194	525-0493	525-0767
841	Monsanto, Philip G	MAY 22 00	Rodriguez		Moca	Espaillat	578-2811		471-0377	578-3813
843	Morris, Elise M	MAY 22 00	Rodriguez		Villa Fundacíon, Baní	Peravia	522-9471	522-9523		522-9747
844	Morris, Julie K	MAY 22 00	Rodriguez		Sabana de la Mar	Hato Mayor	556-7586	556-7313		556-7907
862	Moss, Nicole C	MAY 22 00	Rodriguez		Monte Cristi	Monte Cristi	579-9526	579-3330	579-2336	579-2100
750	Niemeyer, Nicole C	MAY 23 99	Rodriguez		Sabana Perdida	Distrito Nacional	590-8570	590-7511	590-7511	590-8131
845	O'Brien, Jeremy L	MAY 22 00	Rodriguez		Yaque Abajo, Jánico	Santiago	532-3271	344-5824	248-6935	508-2741
847	Pascale, Erika J	MAY 22 00	Rodriguez		Peralta, Azua	Azua	221-0012		521-2451	521-3094
850	Patel, Apurva D	MAY 22 00	Rodriguez		Los Corozos, San José de Ocoa	Peravia	522-4571			522-4571
846	Patton, Steven W	MAY 22 00	Rodriguez		Santo Domingo	Distrito Nacional	597-9570		592-0421	592-6489
849	Peltier, Kelly A	MAY 22 00	Rodriguez	Jarabacoa, Pinar Quemado	Jarabacoa	La Vega	574-2740	574-4193		574-4303
745	Shaffer, Stephanie J	MAY 5 99	Rodriguez		Los Indios, Nagua	María Trinidad Sánchez	584-2747		584-2747	584-3211
741	Skjei, Karen L	MAY 10 99	Rodriguez		El Cercado, San José de Ocoa	Peravia	558-2346		558-3445	558-2903
742	Watanabe, Coral J	MAY 23 99	Rodriguez		El Podrido	Salcedo	577-3647		710-0271	577-2196
Total	23									

49

5/5

PEACE CORPS/DOMINICAN REPUBLIC'S CURRENT PROJECTS

別紙 3
1/3

Crop Production

This project works to improve the technical knowledge of small farmers in order for them to adopt more efficient and sustainable agricultural management practices. The project seeks to increase agricultural production on farmers' lands by (1) establishing demonstration plots to teach new practices and techniques, (2) improving the extension services which provide technical assistance to small farmers, (3) training farmer leaders who will serve as role models and extensionists for other local farmers, and (4) strengthening small farmer organizations.

Community Education Promotion

This project works to improve primary education quantitatively and qualitatively at the local level through the implementation of simple, easily replicable, low-cost, community-level interventions, such as development and distribution of locally produced materials, on-the-job teacher training, improvement of physical facilities, and the start-up and strengthening of parent associations.

Agroforestry

This project works to reverse the process of soil erosion and environmental degradation on the lands of 1,000 low-income, rural farmers in four geographic areas of the Dominican Republic through reforestation activities and the introduction of appropriate agroforestry and soil conservation techniques. Agroforestry Volunteers also assist five Dominican organizations to improve their capabilities to train small farmers in appropriate soil conservation and agroforestry practices according to specific needs, including seedling production, establishment of fruit tree production, multiple-use tree plots, live and dead barriers, contour planting, and alley cropping.

Environmental Awareness Education

This project works to create awareness among Dominicans concerning proper human interaction with the environment, including appropriate waste disposal, water contamination, deforestation, soil conservation, watershed protection, protection of marine resources, appropriate energy use, air quality, noise and safety procedures, and demographic effects on the environment. To accomplish this, Volunteers assist the Ministry of Education to develop and implement environmental education modules which will train teachers on how to incorporate environmental concepts into their current education curriculum. Community leaders also receive training and technical support to develop and implement community projects which incorporate sound environmental concepts and practices and promote environmental protection.

Child Survival

This project works to reduce the risk of infant mortality in low-income families with children under 5 living in rural and marginal urban communities. Volunteers are assigned to the Ministry of Public Health or one of several private voluntary organizations and assist health supervisors to improve and sustain basic health practices and services. The project focuses on the key causes of infant mortality: diarrhea, respiratory infections, and malnutrition. Some Volunteers also help health workers promote family planning and AIDS prevention among adolescents and young mothers.

Environmental Sanitation Project

This project works to reduce infant mortality and various endemic diseases by increasing the number of communities that have immediate access to potable water, improved waste disposal and sanitary facilities, and trained community members to operate and maintain their water and sanitation systems. This project, like the Child Survival Project, focuses on low-income families living in rural and marginal urban communities. Volunteers also assist private

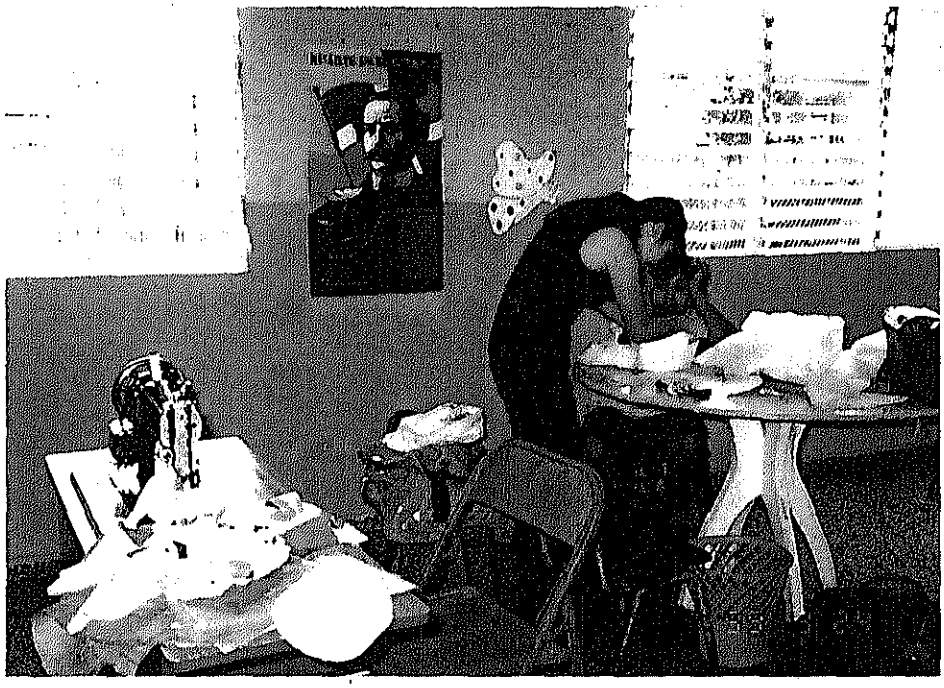
voluntary organizations to improve their abilities to plan, implement and evaluate environmental sanitation projects.

3/3

Micro Enterprise Development

This project works to increase the availability of credit and improve the quality of its management in 30 organizations serving micro- and small entrepreneurs, mostly in rural areas, with the objective of increasing employment and income. Volunteers are assigned primarily to savings and loan cooperatives, where they provide technical assistance so that the cooperatives can effectively serve their membership on a sustained basis. The technical assistance focuses on appropriate managerial procedures and systems in the areas of finance, accounting and controls, credit and collections, planning, human resources and group processes, marketing, and computerization. Volunteers balance that work by trouble shooting business problems of individual micro-entrepreneurs. Other Volunteers are assigned to a variety of other lending and technical assistance organizations, with similar responsibilities. Several Volunteers promote the Junior Achievement Program.

CONANI（国立児童相談所）スタッフ
右から３番目の赤い服を着た女性が所長。



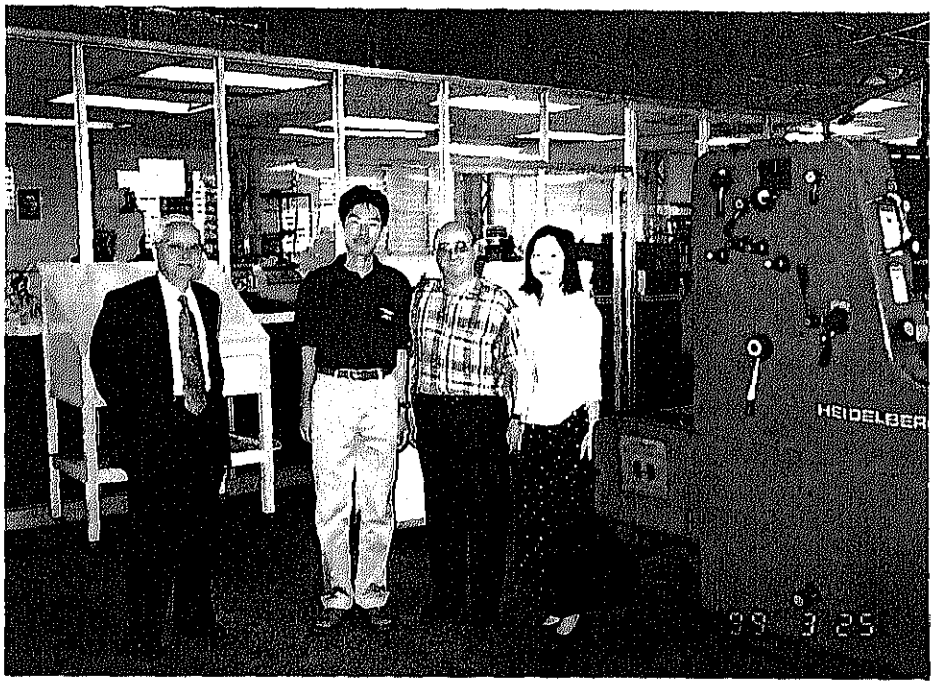
８／３岡本成美隊員　指導風景

La Fé 地域内の学校の授業の様子。
生徒が入り切らないため、３クラス一緒に、同じ教室で授業を実施する。

ヤマサ　シエラ・プリエタ展示農場
(JICA 山間傾斜地農業開発計画プロジェクトサイト)

２名の村落開発普及隊員が巡回する家庭菜園の様子。
（一番右の女性が１０／１正木隊員、左から２番目が１０／１池本隊員）

同上



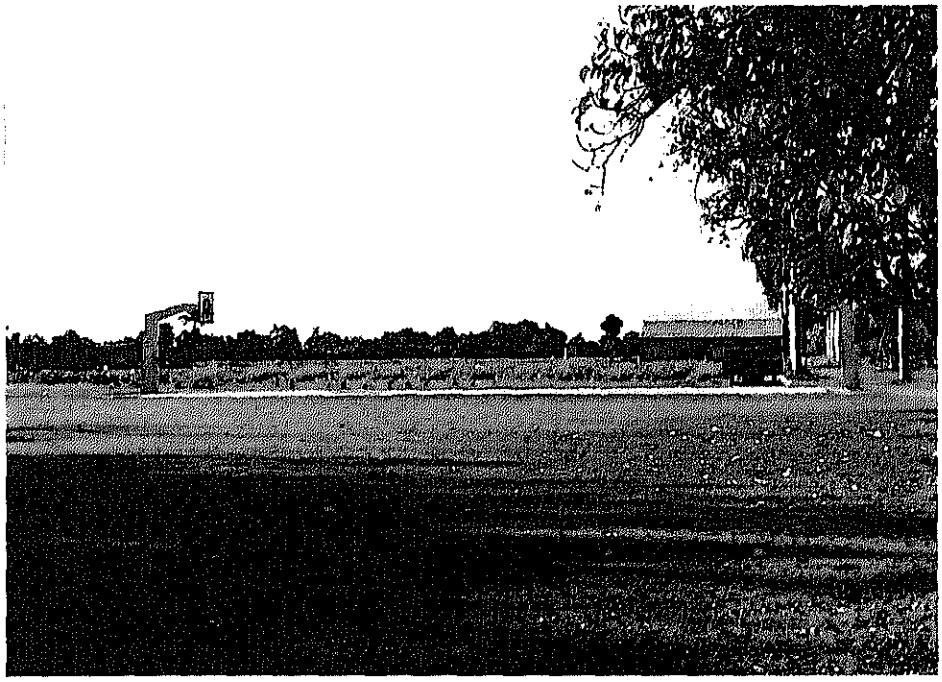
サレシアノ工業専門学校
右から２番目が学校長、３番目が渋谷隊員（１０／１・オフセット）

サレシアノ工業専門学校内部
学校の敷地内に大きな印刷工場がある。

大統領府技術庁
右から２番目が協力隊も含めJICA事業全体の窓口担当者Rosa Ng.氏

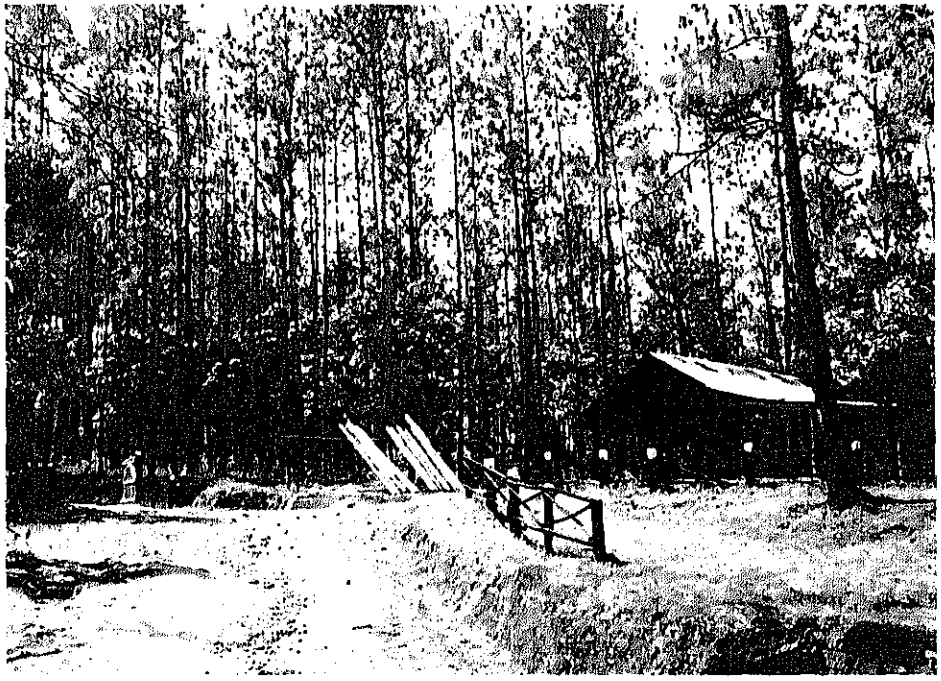
ビジャタピア07-07地域教育事務所スタッフ一同
机の左側前から２番目が村上亜希隊員（１０／２・青少年活動）
机右側一番右の女性が事務所長

サルセド開発事務所管轄の苗畑 Ojo de Agua
6／3 牧野隊員が活動していた。



サン・イグナシオ・デ・ロジョラ農業学校敷地内

レスタウラシオン　サバナ・クララ開発計画
プロジェクトサイト　国有林管理事務所



サバナ・クララ開発計画現場

サン・ホセ・デ・オコア養護学校
前列右から２番目が学校長、前列左端が隊員カウンターパート予定者。

サン・ホセ・デ・オコア　ロス・コロッソス村
河野隊員（８／３・果樹）の活動現場

同じくロス・コロッソス村

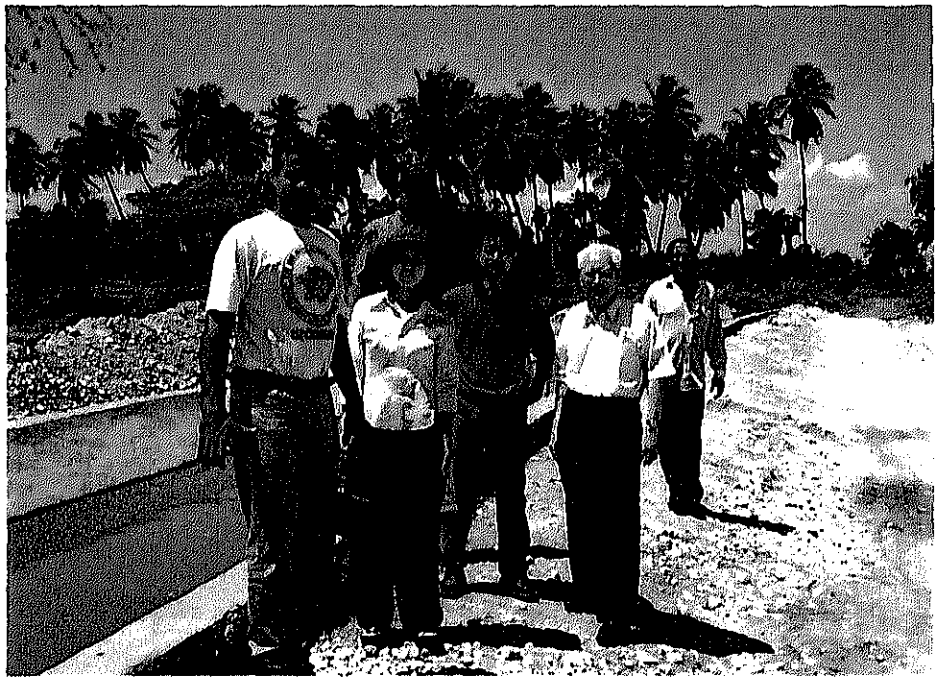
風の町、また桃源郷とも呼ばれている。静かな山の風景が広がる。

右から３人目が、河野隊員の配属先エルマンダの長エリック氏、

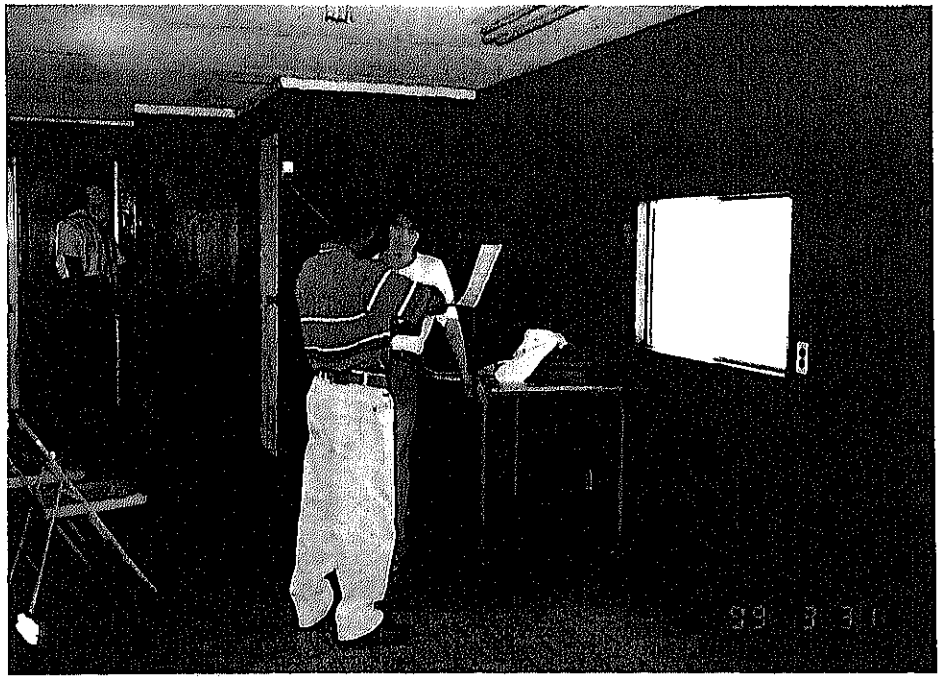
左から３人目が河野隊員。

前の単車は河野隊員に貸与中の単車。

バラオナ地方の、ハリケーンジョージによる被災地。
ハリケーンは河の流れを変えてしまった。



水利庁バラオナ地方灌漑事務所が管轄する地域。
右から３人目が品川隊員（１０／２・農業土木)、その左が事務所長、
一番左が品川隊員のカウンターパート

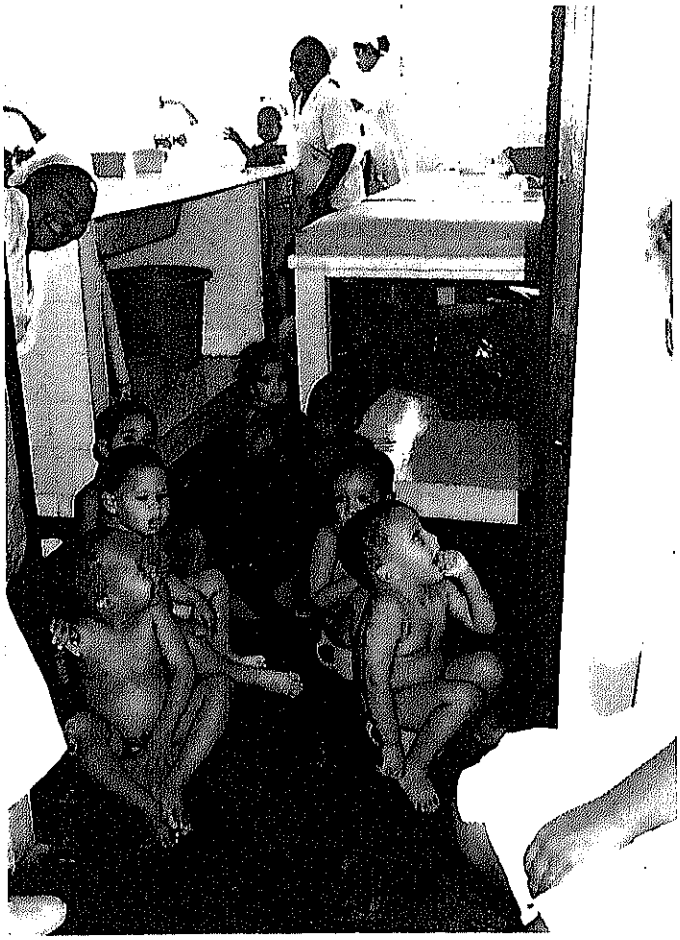


サン・ペドロ・デ・マコリス

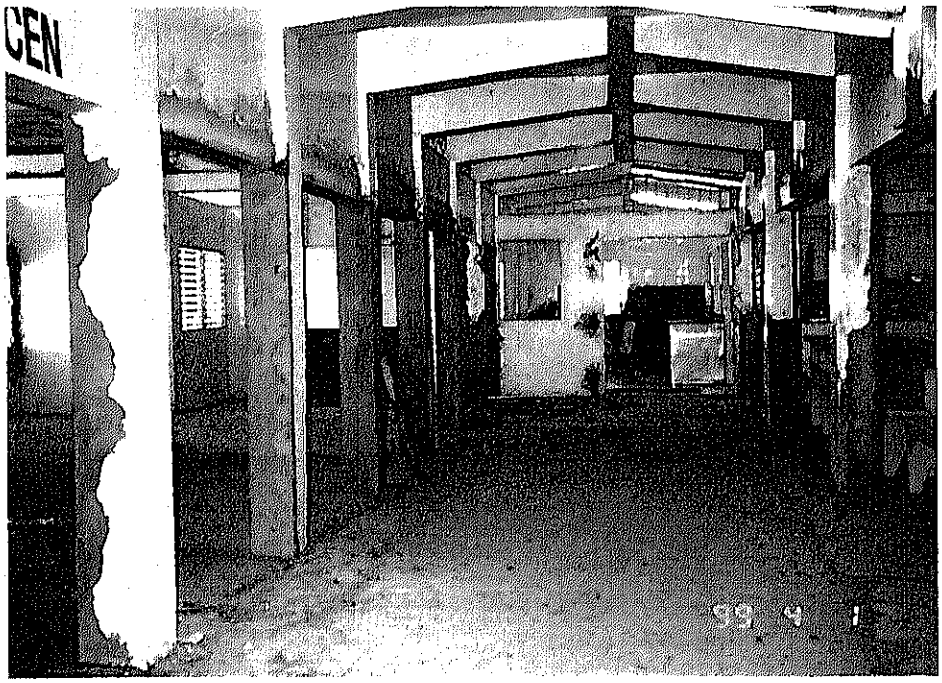
松下隊員（１０／１・音楽）トレーラー式ハウスでの指導現場

ラ・ロマーナ東部福祉慈善団体

右から三國隊員（１０／２・保母)、盆子原隊員（１０／１・栄養士)、「子供の家」の校長のオンディーヌ氏、最高責任者で理事長のシオマラ氏、長谷部隊員（１０／２・配管)、一番前が藤原隊員（９／３・電気工事)



ラ・ロマーナ　東部福祉慈善団体「子供の家」
保育室内部（三國隊員活動現場）
幼児用のトイレがないため、バケツにためた排泄物を成人用のトイレに捨てる。



「子供の家」食堂
草の根無償による食堂拡張（2倍）のための工事

「子供の家」幼稚園部

中島隊員（９／１・幼稚園教諭）活動現場

同じく東部福祉慈善団体「職業訓練校」

一番右が長谷部隊員（１０／２・配管）、左が藤原隊員（９／３・電気工事）

12154